

2025年度 大学院政治学研究科 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

〔発行日：2025/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

政治学専攻_政治学特殊演習 【X5000】 政治学特殊演習 1 [犬塚 元] 春学期授業/Spring	1
政治学専攻_政治学特殊演習 【X5001】 政治学特殊演習 2 [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	2
政治学専攻_修士専門科目 【X5004】 政治理論演習 1 [上田 知夫] 春学期授業/Spring	3
政治学専攻_修士専門科目 【X5005】 政治理論演習 2 [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	4
政治学専攻_修士専門科目 【X5006】 政治制度研究 1 [河野 有理] 春学期授業/Spring	5
政治学専攻_修士専門科目 【X5007】 政治制度研究 2 [河野 有理] 秋学期授業/Fall	6
政治学専攻_修士専門科目 【X5008】 行政学研究 1 [林 嶺那] 春学期後半/Spring(2nd half)	7
政治学専攻_修士専門科目 【X5009】 行政学研究 2 秋学期後半/Fall(2nd half)	8
政治学専攻_修士専門科目 【X5018】 公共哲学研究 1 秋学期前半/Fall(1st half)	9
政治学専攻_修士専門科目 【X5019】 公共哲学研究 2 秋学期後半/Fall(2nd half)	10
政治学専攻_修士専門科目 【X5020】 コミュニティ論研究 1 秋学期前半/Fall(1st half)	11
政治学専攻_修士専門科目 【X5021】 コミュニティ論研究 2 春学期後半/Spring(2nd half)	13
政治学専攻_修士専門科目 【X5026】 公共政策研究 1 春学期前半/Spring(1st half)	15
政治学専攻_修士専門科目 【X5027】 公共政策研究 2 春学期後半/Spring(2nd half)	16
政治学専攻_修士専門科目 【X5030】 政治過程研究 1 [山口 二郎] 春学期授業/Spring	17
政治学専攻_修士専門科目 【X5031】 政治過程研究 2 [山口 二郎] 秋学期授業/Fall	18
政治学専攻_修士専門科目 【X5032】 行政理論研究 1 春学期後半/Spring(2nd half)	19
政治学専攻_修士専門科目 【X5034】 政策学研究 1 秋学期前半/Fall(1st half)	21
政治学専攻_修士専門科目 【X5035】 政策学研究 2 秋学期後半/Fall(2nd half)	22
政治学専攻_修士専門科目 【X5043】 連帯社会とサードセクター [伊丹 謙太郎、池本 修悟、WOO JONGWON] 春学期授業/Spring	23
政治学専攻_修士専門科目 【X5044】 立法学研究 1 春学期前半/Spring(1st half)	24
政治学専攻_修士専門科目 【X5048】 自治体研究 1 春学期前半/Spring(1st half)	26
政治学専攻_修士専門科目 【X5052】 公務員制度研究秋学期後半/Fall(2nd half)	28
政治学専攻_修士専門科目 【X5057】 雇用・労働政策研究秋学期前半/Fall(1st half)	30
政治学専攻_修士専門科目 【X5058】 政策法務論春学期後半/Spring(2nd half)	31
政治学専攻_修士専門科目 【X5059】 防災危機管理研究春学期前半/Spring(1st half)	33
政治学専攻_修士専門科目 【X5063】 ジェンダー政治研究 2 春学期後半/Spring(2nd half)	34
政治学専攻_修士専門科目 【X5065】 自治体議会論春学期後半/Spring(2nd half)	37
政治学専攻_修士専門科目 【X5066】 NPO論 1 [池本 修悟] 春学期前半/Spring(1st half)	38
政治学専攻_修士専門科目 【X5067】 NPO論 2 [池本 修悟] 春学期後半/Spring(2nd half)	40
政治学専攻_修士専門科目 【X5069】 シンクタンク論 [蒔田 純] 秋学期集中/Intensive(Fall)	42
政治学専攻_修士専門科目 【X5073】 国際政治の基礎理論 1 [大野 知之] 春学期授業/Spring	44
政治学専攻_修士専門科目 【X5078】 国際開発政策研究 1 [武貞 稔彦] 秋学期前半/Fall(1st half)	45
政治学専攻_修士専門科目 【X5090】 アメリカ政治研究 1 [中野 勝郎] 春学期授業/Spring	47
政治学専攻_修士専門科目 【X5091】 アメリカ政治研究 2 [中野 勝郎] 秋学期授業/Fall	48
政治学専攻_修士専門科目 【X5094】 日中関係政策論 1 [熊倉 潤] 春学期授業/Spring	49
政治学専攻_修士専門科目 【X5095】 日中関係政策論 2 [熊倉 潤] 秋学期授業/Fall	50
政治学専攻_修士専門科目 【X5107】 国際行政研究 1 [坂根 徹] 春学期授業/Spring	51
政治学専攻_博士専門科目 【X5203】 博士論文演習Ⅱ A [河野 有理] 春学期授業/Spring	52
政治学専攻_博士専門科目 【X5204】 博士論文演習Ⅱ B [河野 有理] 秋学期授業/Fall	53
政治学専攻_博士専門科目 【X5205】 博士論文演習Ⅲ A [杉田 敦] 春学期授業/Spring	54
政治学専攻_博士専門科目 【X5206】 博士論文演習Ⅲ B [杉田 敦] 秋学期授業/Fall	55
政治学専攻_博士専門科目 【X5207】 博士論文演習Ⅲ A [犬塚 元] 春学期授業/Spring	56

政治学専攻_博士専門科目	【X5208】博士論文演習ⅢB〔犬塚 元〕秋学期授業/Fall	57
国際政治学専攻_選択必修科目（基礎理論）	【X5500】国際政治理論〔大野 知之〕春学期授業/Spring	58
国際政治学専攻_選択必修科目（基礎理論）	【X5506】アジア国際政治史〔福田 円〕春学期授業/Spring	59
国際政治学専攻_選択必修科目（基礎理論）	【X5507】国際公共政策研究1〔坂根 徹〕春学期授業/Spring	60
国際政治学専攻_選択必修科目（基礎理論）	【X5509】国際協力政策研究〔武貞 稔彦〕秋学期前半/Fall(1st half) ..	61
国際政治学専攻_選択必修科目（基礎理論）	【X5511】非伝統的安全保障研究〔本多 美樹〕春学期授業/Spring	63
国際政治学専攻_必修科目	【X5512】Academic Reading（初級）〔Alan MEADOWS〕春学期授業/Spring	64
国際政治学専攻_必修科目	【X5513】Academic Reading（上級）〔ZAHIR HASAN〕秋学期授業/Fall	65
国際政治学専攻_必修科目	【X5514】Thesis Writing（初級）〔Alan MEADOWS〕春学期授業/Spring	66
国際政治学専攻_必修科目	【X5515】Thesis Writing（上級）〔ZAHIR HASAN〕秋学期授業/Fall	67
国際政治学専攻_必修科目	【X5516】Presentation & Debate（初級）〔Alan MEADOWS〕春学期授業/Spring	68
国際政治学専攻_必修科目	【X5517】Presentation & Debate（上級）〔ZAHIR HASAN〕秋学期授業/Fall	69
国際政治学専攻_選択必修科目（基礎理論）	【X5520】国際公共調達研究1〔坂根 徹〕秋学期授業/Fall	70
国際政治学専攻_選択科目	【X5523】地球規模課題政策研究〔本多 美樹〕秋学期授業/Fall	71
国際政治学専攻_選択科目	【X5526】アジア国際関係研究2〔福田 円〕秋学期授業/Fall	72
国際政治学専攻_選択科目	【X5529】対外政策研究（中国）（1）〔熊倉 潤〕春学期授業/Spring	73
国際政治学専攻_選択科目	【X5530】対外政策研究（中国）（2）〔熊倉 潤〕秋学期授業/Fall	74
国際政治学専攻_選択科目	【X5537】国際地域研究（朝鮮半島）（1）〔権 鎬淵〕春学期授業/Spring	75
国際政治学専攻_選択科目	【X5538】国際地域研究（朝鮮半島）（2）〔崔 先鎬〕秋学期授業/Fall	76
国際政治学専攻_選択科目	【X5541】国際地域研究（東南アジア）（1）〔浅見 靖仁〕春学期授業/Spring	77
国際政治学専攻_選択科目	【X5542】国際地域研究（東南アジア）（2）〔浅見 靖仁〕秋学期授業/Fall	78
国際政治学専攻_選択科目	【X5543】国際地域研究（ヨーロッパ）（1）〔宮下 雄一郎〕春学期授業/Spring	80
国際政治学専攻_選択科目	【X5544】国際地域研究（ヨーロッパ）（2）〔宮下 雄一郎〕秋学期授業/Fall	81
国際政治学専攻_選択科目	【X5547】グローバル政治経済特別セミナー〔浅見 靖仁〕サマーセッション/Summer Session	82
国際政治学専攻_選択科目	【X5550】総合講座・外交総合講座〔本多 美樹〕秋学期授業/Fall	83
国際政治学専攻_必修科目	【X5560】国際政治学特殊演習〔宮下 雄一郎〕秋学期授業/Fall	84

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治学特殊演習 1

犬塚 元

備考（履修条件等）：修士1・2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学特殊演習1および2は、政治学研究科政治学専攻に所属する教員たちの総力によって、専攻の大学院生が修士論文を書き上げていく上で必要な指導を行なう論文指導科目である。1は春学期に開講される。

【到達目標】

修士1年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士2年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。最終目標はそれぞれが修士論文を完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

政治学特殊演習1は、7月初旬に行なう論文構想発表会が、将来に向けた重要な発表の経験の機会となる。指導教員の指導を受けながらその準備と事後の振り返りをしっかり行なっていくことが必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の概要、進め方について説明する。
第2回	研究倫理	研究倫理についての研修プログラムを受講する。
第3回	論文執筆の心構え	コースワークとは独自にどのように論文を準備していったらよいかを考える。
第4回	研究論文の基本	研究論文の基本を学習、確認する。
第5回	資料・文献の探索	図書館とオンラインデータベースの使い方に習熟する。
第6回	研究テーマと論文構想	自分なりの研究テーマを確定し、どんな論文を書いていくかを考える。
第7回	先行研究のフォロー	論文で扱うテーマについてどんな先行研究があるかを調べて整理していく。
第8回	資料収集	特に一次資料については、その所在や入手方法を確認し、収集計画を立てる。
第9回	主要文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて主要文献ないし重要資料とされているものを読み解く。
第10回	問いと観点の明瞭化	資料・文献の読解、分析に基づいて、どのような研究上の問いと観点を採用するのかを検討する。
第11回	論文構想づくり	論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。
第12回	論文構想発表会（報告）	それぞれ構想していることについて報告し、全教員による指導を受ける。
第13回	論文構想発表会（精査）	他の院生がおこなう研究報告を把握、分析し、報告方法や研究の組み立て方などを参考にする。
第14回	論文構想発表会の振り返り	論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上の「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのいわゆるコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。そのために要する時間は通常、授業時間を大幅に上回るものになることから、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要ときに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

1年次生については、論文構想発表会での出席と報告（80%）、提出物（20%）で評価する。2年次生については、論文構想発表会での出席と報告（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【Outline (in English)】

This seminar is supervised by the supervisor and other members of the the Department of Politics. The seminar is held as a workshop by the teaching staff and students of the the Department of Politics. The aim of this course is to provide the basic skills and knowledge essential for writing a master's thesis. Students are required to take Seminar I in the spring semester and Seminar II in the autumn semester. (Criteria and policy for grading)

Each student must give a presentation on her thesis once a semester. Credit will be given if the requirements are met.

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治学特殊演習 2

犬塚 元

備考（履修条件等）：修士1・2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学特殊演習1および2は、政治学研究科政治学専攻に所属する教員たちの総力によって、専攻の大学院生が修士論文を書き上げていく上で必要な指導を行なう論文指導科目である。2は春学期に開講される。

【到達目標】

修士1年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士2年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。最終目標はそれぞれが修士論文を完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

政治学特殊演習2は、12月初旬に行なう論文構想発表会がそれぞれの院生にとって最も重要な発表の機会となる。指導教員の指導を受けながらその準備と事後の振り返りをしっかり行なっていくことで、論文完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文テーマの確定	秋学期のはじめには修士2年はもちろん、修士1年の院生もなるべく論文の大きなテーマは決めるようにしたい。
第2回	先行研究のフォロー、分析	論文で扱うテーマについてどんな先行研究があるかを調べて整理していく。
第3回	文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて必要な文献ないし重要資料を読み解く。
第4回	問いと観点の設定	資料・文献の読解、分析に基づいて、研究上の問いと観点を設定する。
第5回	研究史における位置づけ	論文で扱う（扱おうとしている）研究内容を、当該分野における研究史の文脈上に位置づける。
第6回	論文構想の彫琢	書こうとしている論文についてのレジュメを作成してみる。特に修士2年生は詳しいレジュメを作る。
第7回	論文執筆開始	書きやすいところから実際に論文を書き進めていく。
第8回	論文構成の調整	執筆過程で新たな考察要素を加えることの必要に気付いた場合などには、必要に応じて論文の構成を調整する。
第9回	文献・資料の補強	研究の深化に対応して、文献・資料の収集、分析を必要に応じて継続する。
第10回	校閲、推敲	論文の執筆過程における校閲、推敲の重要性を理解する。
第11回	論文構想発表会資料づくり	論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。
第12回	論文構想発表会（報告）	それぞれ構想していることについて報告し、全教員による指導を受ける。
第13回	論文構想発表会（精査）	他者の研究報告を把握、分析し、報告方法や研究の組み立て方などを参考にする。
第14回	論文構想発表会の振り返り	論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上の「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのいわゆるコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。そのために要する時間は通常、授業時間を大幅に上回るものになることから、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要ときに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文構想発表会での出席と報告（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【Outline (in English)】

This seminar is supervised by the supervisor and other members of the the Department of Politics. The seminar is held as a workshop by the teaching staff and students of the the Department of Politics. The aim of this course is to provide the basic skills and knowledge essential for writing a master's thesis. Students are required to take Seminar I in the spring semester and Seminar II in the autumn semester.

(Criteria and policy for grading)

Each student must give a presentation on her thesis once a semester.

Credit will be given if the requirements are met.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

政治理論演習 1

上田 知夫

備考（履修条件等）：法学部専門科目「外国語講読（独語）」と共通して開催します。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハーバマスの『事実性と妥当性』第8章「市民社会および政治的公共圏の役割」から第3節「市民社会のアクター、公共的意見、コミュニケーション的権力」をドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の議論に触れる。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。

政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約2ページ進むことを目指します）。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこれるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	第3節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	第3節精読（第2回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	第3節精読（第3回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	第3節精読（第4回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	第3節精読（第5回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	第3節精読（第6回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	第3節精読（第7回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	第3節精読（第8回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	第3節精読（第9回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	第3節精読（第10回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	第3節精読（第11回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	第3節精読（第12回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論

第14回 まとめ

まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung (Suhrkamp, [1992/1998], Abs. 8.1.

初回にコピーを配布します。

【参考書】

今回の文献には邦訳がすでにあります。

ユルゲン・ハーバマス（河上倫逸・耳野健二訳）『事実性と妥当性（下）』（未来社、2003年）

こちらを参照するのは自由です。

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読することはしません。

文法について考えるのみではなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書または文法教科書も、必ず持ってきてください。

（どちらも平常点の評価ポイントになります。）

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。（昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。）

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading Habermas's most recent work.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires 2 hours of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL500A3（政治学 / Politics 500）

政治理論演習 2

上田 知夫

備考（履修条件等）：法学部専門科目「外国語講読（独語）」と共通して開催します。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハーバマスの『事実性と妥当性』第8章「市民社会および政治的公共圏の役割」から第3節「市民社会のアクター、公共的意見、コミュニケーションの権力」をドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の議論に触れる。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。

政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約2ページ進むことを目指します）。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこれるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	第3節精読（春学期の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	第3節精読（第2回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	第3節精読（第3回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	第3節精読（第4回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	第3節精読（第5回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	第3節精読（第6回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	第3節精読（第7回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	第3節精読（第8回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	第3節精読（第9回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	第3節精読（第10回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	第3節精読（第11回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	第3節精読（第12回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論

第14回 まとめ

まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung (Suhrkamp, [1992/1998], Abs. 8.3.

初回にコピーを配布します。

【参考書】

今回の文献には邦訳がすでにあります。

ユルゲン・ハーバマス(河上倫逸・耳野健二訳)『事実性と妥当性(下)』(未来社、2003年)

こちらを参照するのは自由です。

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読することはしません。

文法について考えるのみではなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。

(どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。(昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。)春学期の続きを読みますが、途中参加も可能です。

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading Habermas's most recent work.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires 2 hours of preparation.

【Grading Criteria / Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL500A3（政治学 / Politics 500）

政治制度研究 1

河野 有理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治制度および日本政治思想史の重要問題について、文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】

政治制度および日本政治思想史上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、文献を講読して議論する。

対面で行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献講読1	テキストを読んでディスカッションする1
第2回	文献講読2	テキストを読んでディスカッションする2
第3回	文献講読3	テキストを読んでディスカッションする3
第4回	文献講読4	テキストを読んでディスカッションする4
第5回	文献講読5	テキストを読んでディスカッションする5
第6回	文献講読6	テキストを読んでディスカッションする6
第7回	文献講読7	テキストを読んでディスカッションする7
第8回	文献講読8	テキストを読んでディスカッションする8
第9回	文献講読9	テキストを読んでディスカッションする9
第10回	文献講読10	テキストを読んでディスカッションする10
第11回	文献講読11	テキストを読んでディスカッションする11
第12回	文献講読12	テキストを読んでディスカッションする12
第13回	文献講読13	テキストを読んでディスカッションする13
第14回	文献講読14	テキストを読んでディスカッションする14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【その他の重要事項】

本講義は、大学院における博士論文指導演習1Aと合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学

<研究テーマ>日本政治思想史

<主要研究業績>

『明六雑誌の政治思想』『田口卯吉の夢』

【Outline (in English)】

Deepen your knowledge of important issues in the history of Japanese political thought by reading and discussing literature.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

政治制度研究 2

河野 有理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本政治思想史の重要問題について、文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】

日本政治思想史上の重大な問題について、研究に必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、文献を講読して議論する。

対面で行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献講読1	テキストを読んでディスカッションする1
第2回	文献講読2	テキストを読んでディスカッションする2
第3回	文献講読3	テキストを読んでディスカッションする3
第4回	文献講読4	テキストを読んでディスカッションする4
第5回	文献講読5	テキストを読んでディスカッションする5
第6回	文献講読6	テキストを読んでディスカッションする6
第7回	文献講読7	テキストを読んでディスカッションする7
第8回	文献講読8	テキストを読んでディスカッションする8
第9回	文献講読9	テキストを読んでディスカッションする9
第10回	文献講読10	テキストを読んでディスカッションする10
第11回	文献講読11	テキストを読んでディスカッションする11
第12回	文献講読12	テキストを読んでディスカッションする12
第13回	文献講読13	テキストを読んでディスカッションする13
第14回	文献講読14	テキストを読んでディスカッションする14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【その他の重要事項】

本講義は、大学院における博士論文指導演習2Bと合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞政治学

＜研究テーマ＞日本政治思想史

＜主要研究業績＞

『明六雑誌の政治思想』『田口卯吉の夢』

【Outline (in English)】

Deepen your knowledge of important issues in the history of Japanese political thought by reading and discussing literature.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

行政学研究 1

林 嶺那

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学・連帯社会「行政学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。

【到達目標】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第2回	論文の報告①	割り当てられた論文についての報告
第3回	「論文の報告①」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第4回	論文の報告②	割り当てられた論文についての報告
第5回	「論文の報告②」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第6回	論文の報告③	割り当てられた論文についての報告
第7回	「論文の報告③」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第8回	論文の報告④	割り当てられた論文についての報告
第9回	「論文の報告④」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第10回	論文の報告⑤	割り当てられた論文についての報告
第11回	「論文の報告⑤」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第12回	論文の報告⑥	割り当てられた論文についての報告
第13回	「論文の報告⑥」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第14回	まとめ	これまで扱った論文について振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、割り当てられた論文の読解 60 分、論文報告資料準備 120 分で、合計 180 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価 4290 円
曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価 2970 円

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーの提出（50%）
論文の報告（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

行政や政策に関するニュースを見る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学
<研究テーマ> 人事行政
<主要研究業績> 林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】

The course aims to give students an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

行政学研究 2

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「行政学事例研究の方法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになることを目的とする。なお、本講義では、事例研究を「より大きな事例の集合に、少なくとも部分的に光を当てることを目的とするような単一あるいは複数事例の研究」と定義する。

【到達目標】

行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究のタイプと研究論文の構造	記述的な研究と因果的な研究の区別を理解した上で、研究論文の基本的な構造を学ぶ。
第3回	事例研究のタイプ	事例研究のタイプに関する著作の一部を読む。
第4回	事例選択の基準	事例選択の基準に関する著作の一部を読む。
第5回	記述的な事例研究	記述的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第6回	因果的な事例研究	因果的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第7回	定性的研究と定量的研究の違い	定性的研究と定量的研究の違いを理解し、両者を組み合わせた混合手法について理解する。
第8回	事例研究の評価基準	事例研究の評価基準に関する著作の一部を読む。
第9回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。行政改革に関する論文を予定している。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。第一線公務員論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。リーダーシップに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。ガバナンスに関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。途上国の行政に関する論文を予定している。
第14回	研究構想の発表	事例研究に基づく研究計画の構想を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

King, G., Keohane, R. O., & Verba, S., 1994, Designing social inquiry, Princeton university press.

Gerring, J., 2016, Case Study Research: Principles and Practices, Cambridge University Press.

Yin, R.K., 1994, Case Study Research: Design and Methods, Sage.

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるとの機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学

<研究テーマ> 人事行政

<主要研究業績> 林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】

This course aims to deepen students' understanding of the theory and practice of case studies in public administration and enable them to implement case studies. In this course, a case study is defined as a study on single or multiple cases that aims to shed light, at least partially, on a more extensive set of cases. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

公共哲学研究 1

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「公共哲学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目の一つである。近代以降の社会思想の展開をたどり、「自由」と「公共」という公共哲学の基礎的な概念について理解し、現代の公共的課題を探究できる能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】

公共哲学の基礎的な概念である「自由」と「公共」、およびそれらの関連について理解し、それを踏まえて現代の公共的課題を探究できる能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキスト（教科書）を講読する。受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業で報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	導入的講義／文献講読：坂本後掲書序章・第1章	導入的講義、「社会思想とは何か」、「マキアヴェリ」の社会思想
第3,4回	文献講読：坂本後掲書第2章・第3章	「宗教改革の社会思想」、「古典的『社会契約』思想の展開」
第5,6回	文献講読：坂本後掲書第4章・第5章	「啓蒙思想と文明社会論の展開」、「ルソーの文明批判と人民主権論」
第7,8回	文献講読：坂本後掲書第6章・第7章	「スミスにおける経済学の成立」、「『哲学的急進主義』の社会思想——保守から改革へ」
第9,10回	文献講読：坂本後掲書第8章・第9章	「近代自由主義の批判と継承——後進国における『自由』」、「マルクスの資本主義批判」
第11,12回	文献講読：坂本後掲書第10章・第11章	「J・S・ミルにおける文明社会論の再建」、「西欧文明の危機とヴェーバー」
第13,14回	文献講読：坂本後掲書第12章・第13章・終章	「『全体主義』批判の社会思想——フランクフルト学派とケインズ、ハイエク」、「現代『リベリズム』の諸潮流」、「社会思想の歴史から何を学ぶか」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は文献を準備学習し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会、2014年）を文献講読のテキストとする。各章とも、社会思想家の思想内容が要領よく整理されていると同時に、まとめとしてその思想が「自由」と「公共」という概念にどのように結び付いているのかが提示されており、本科目の趣旨に相応しい文献と思われる。

【参考書】

必要に応じて授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業改善アンケートの結果が得られていないためフィードバックできない。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

公共政策の政治社会学

＜研究テーマ＞

新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治

＜主要研究業績＞

『「新しい公共」とは何だったのか—四半世紀の軌跡と新自由主義統治性』（風行社、2023年）

『「公共」のオルタナティブは可能か—『新しい公共』言説の検証から』（『世界』2023年9月号、2023年）

『統治性研究・ガバナンス理論と国家・政治の概念に関する一断章』（『インフォーマルな政治の探究—政治学はどのような政治を語りうるか（仮）』所収、吉田書店、2025年近刊）

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to understand the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public," by tracing the development of social thought since the modern era, and to cultivate students' ability to investigate contemporary public issues.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to develop an understanding of the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public" and their correlations, and to acquire the ability to investigate contemporary public issues based on this understanding.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports, and to write a term-end report to be presented at the end of the class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20%).

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

公共哲学研究Ⅱ

備考（履修条件等）：公共政策学「公共哲学研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、環境主義の言説は広く受け入れられつつあります。本科目では、現代環境思想への理解を深めることを目的に、環境主義の古典（重要文献）を講読します。

【到達目標】

- ・環境保全に関する言説の展開や背景、論理について説明できる。
- ・「持続可能な開発」の含意について、批判的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講読対象となる文献は「Our Common Future: Report of the World Commission on Environment and Development」です。この文献は、現在進行中のSDGsが目指す「持続可能な開発」という概念を定義した国連の報告書であり、オンラインで入手可能です。実際には、その和訳本『地球の未来を守るために』（1987）を中心に講読を進めます。

序章・第1章・第2章・第12章は必須で、その他の章は時間が許す限り扱います（つまり、以下の授業計画は暫定的なものです）。原則として授業では、受講者がレジюмеを作成し、その報告に基づいて文献の検討を行います。報告に対しては、授業中に参加者全員で質疑・議論を行い、講評を通じてフィードバックを行います。また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する。とりわけ、講読の方法・方針を共有する。 ・SDGsの二本柱となっている環境主義と南北問題の大きな流れを確認する
第3,4回	文献購読：「付録Ⅱ」「ブルントラント委員長の緒言」	テキストの「ブルントラント委員長長の緒言」と「付録Ⅱ」から当該報告書の主題・背景・意義・成り立ちなどについて考察する
第5,6回	文献購読：『地球の未来を守るために』序章	「『地球は一つ』から『世界は一つ』へ」
第7,8回	文献購読：『地球の未来を守るために』第1章	「脅かされる未来」
第9,10回	文献購読：『地球の未来を守るために』第2章	「持続的な開発に向けて」
第11,12回	文献購読：『地球の未来を守るために』第3章～11章までのいずれかから2章	経済、人口、食糧安全保障、生態系、エネルギー、工業、都市問題、コモンズ、安全保障から選択
第13,14回	文献購読：『地球の未来を守るために』第12章	「共同の行動に向けて——組織と法制度の変革に関する提案」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】

「Our Common Future: Report of the World Commission on Environment and Development」(<https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/5987our-common-future.pdf>)

【参考書】

the World Commission on Environment and Development, 1987, "Our Common Future" Oxford University Press (=1987, 大来佐武郎監訳『地球の未来を守るために』福武書店.)

【成績評価の方法と基準】

レジюмеによる報告（30%）及び期末レポート（30%）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本報告書（テキスト）は独特な書き方をしており、骨子を読み解くのに苦労された方が多かったようです。

そこで今回は、精読の方法を共有するための時間を授業の冒頭に設けます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
<研究テーマ>廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
<主要研究業績>

2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林』12: 1-18.

2018『白老における「アイヌ民族」の変容」東信堂.

2016『開発援助の介入論』東信堂.

【Outline (in English)】

(Course outline) In contemporary society, the discourse of environmentalism is becoming widely accepted. This course aims to deepen the understanding of modern environmental thought by reading a classical work (important text) of environmentalism.

(Learning Objectives) At the end of the course, students should be able to:

- ・explain the recent environmental policies in terms of their historical background, achievements, limitations, and so on.
- ・take a critical look at the meaning of "sustainable development".

(Learning activities outside of classroom) Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy) Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

コミュニティ論研究 1

備考（履修条件等）：公共政策学「市民社会とコミュニティ」と合同
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニティ制度論」が主として制度的側面を対象にしたのに対して、本科目ではコミュニティ・レベルで展開している民間諸主体の公共的な動きを、事例研究を通じて考え、理論的な整理を行う。

【到達目標】

地域的まとまり論という基本枠組、日本のコミュニティの基礎的組織（自治会・町内会や地区社会福祉協議会、地区民生委員協議会、消防団など）や地域で活動するNPOなどについて理解し、その現代的、日本の特徴を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究科修士課程のこの「市民社会とコミュニティ」は、同博士後期課程の「コミュニティ構造特殊研究」及び政治学研究科の「コミュニティ論研究2」との合併開講である。進め方は開講時に相談して決めたいが、講義形式のほか受講者による報告形式を取り入れることを想定している。「地域的まとまり」とその重層構造という理論枠組を基礎として理解した上で、日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったほか、民間（「市民社会」）側の多彩な営為が生活を支えてきたことを論じていく。特に今世紀に入って多様に展開されている事例、コミュニティ・ビジネスの事例や協働事業の事例などを事例研究として取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域的まとまり論とコミュニティの定義	「地域的まとまり」とその重層構造とその日本の特質を理解する。ミルトン・コトラーに学びつつ、地域社会運営の制度的必要条件として、管轄領域の公的画定、法人格、課税権、条例制定権を析出し、これを失った地域社会がこれを回復するためにコトラーが考えた私法人での実績を積み上げるとい戦略に注目する。
第2回	市民社会組織が織りなす日本の地域コミュニティ	日本のありふれた地域コミュニティは、地縁型及びテーマ型の市民社会組織が連関している姿としてイメージできる。
第3回	自治会・町内会論	上記4条件を民間的原理の上に回復する地域組織として自治会・町内会を捉え、その組織的な基本的特質と歴史とを論ずる。
第4回	日本の地縁組織の現在	自治会・町内会が現在抱えている困難を分析する。

第5回	テーマ型市民活動の特徴と現代的傾向	地縁型の組織とテーマ型の組織との緊張関係をパーソナリティの類型論という観点から解明するほか、テーマ型市民活動の中にも、相異なる類型があることを、アンケート調査に基づいて明らかにする。また、最近では、市民活動が事業化、専門化している様子にも注意を払う。
第6回	市民活動事例研究 1 市民活動の専門化・事業化	この20年ほどの間に、ボランティアベースで始まった市民活動が、次第に専門化・事業化を遂げた事例をいくつか分析する。居場所づくりを志向する市民活動は意外に多い。中でもコミュニティカフェに焦点をあて、公共空間というものについて考える。
第7回	現代の「公共空間」とコミュニティカフェ	とりわけ「港南台ファウンカフェ」に焦点を当てて、コミュニティカフェとそのビジネスモデルを分析する。
第8回	市民活動事例研究 2 コミュニティカフェのビジネスモデル	市民活動支援として行なわれている協働事業提案制度を分析し、市民活動の資金問題についても考える。
第9回	協働事業提案制度	協働事業提案制度の中でも特異な存在である横浜市のヨコハマ市民まち普請事業を検討する。
第10回	市民活動事例研究 3 ヨコハマ市民まち普請事業	昨今は「コーディネーター」と称する支援者を置く仕組みが増えている。「コーディネート」というものの専門性に迫ることを試みる。
第11回	コミュニティワークの専門性	冒険遊び場づくりを特に取り上げ、いくつかの事例に則して、その「プレイリーダー」の専門性を具体的に分析してみる。
第12回	市民活動事例研究 4 冒険遊び場づくり	雲南市等のいわゆる4市協議体が提唱した「スーパーコミュニティ法人」をきっかけにコミュニティにおいて使いやすい法人に関する議論が高まった。その腫瘍論点を整理する。
第13回	市民活動の法人論	2020年に労働者協同組合法が制定され、市民活動が選択できる法人形態がまた一つ増えた。その持っている可能性や位置づけについて考える。
第14回	市民活動事例研究 5 労働者協同組合の可能性	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容と授業で提示された文献や資料について、よく復習をすること。事前に提示された資料がある場合は、予習を行なうこと。それぞれにおおむね2時間程度をかけることを想定している。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に指示するが、拙著の『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）や『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）、『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）に、本科目の基本的なアイデアが展開されている。

【成績評価の方法と基準】

開講時に相談して決めたいが、受講者が一度ずつ授業中に報告をしてもらうことを想定しており、その場合には授業での報告 80 %、授業中での討論・発言 20 %m と考えている。期末レポート方式になった場合には、そのレポートが 80% としたい。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を担当するのは久しぶりであるから、学生・院生からの直接の反応から気づいたことというものはない。このところ院生たちの間でコミュニティ政策への関心はやや強まっていると感じているので、ここ数年の研究を活かし、またこの数年の新しい動きにも留意していきたい。

【担当教員の専門分野等】

コミュニティ政策、公共哲学、法社会学

【Outline (in English)】

Different types of so-called civil society organizations in Japan , which are active mainly in the local community, are analyzed in this class.

Term-end examination or Repoting in the class: 80%、
Discussions in the class : 20%.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

コミュニティ論研究2

備考（履修条件等）：公共政策学「コミュニティ制度論」と合同
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティとは、合併によって制度的枠組を失った身近な地域的まとまりである、という観点から、このコミュニティを再制度化する政策ないし制度である都市内分権や小規模町村の連携制度などを国際比較的に考察する。これによってコミュニティ政策というものについて基礎的な理解を得ることが目的である。

【到達目標】

「地域的まとまり」論、地域社会運営の制度的条件論を基礎に、現代コミュニティ政策の諸相を理解すること。特に、「地域的まとまり」とその重層構造という理論枠組を基礎として理解した上で、合併によって市町村としての制度的枠組を失う身近な地域的まとまりが制度的にどのように取り扱われたかを国際比較的に検討する。日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったが、1970年代からいわゆるコミュニティ政策によって再制度化が開始され、1990年代以降は新たな段階を迎える。そこにおいては、「協働」や「新しい公共」という政策理念が採用された点に、ヨーロッパと比較したときに大きな特徴があることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究科のこの修士課程科目「コミュニティ制度論」は、同博士後期課程科目「コミュニティ政策特殊研究」及び政治学研究科の「コミュニティ論研究1」との合併開講である。授業の進め方は、開講時に相談して決めたい。基本的には講義形式で進めていくが、各回とも、受講者自らが考えることのできるような材料（政策文書や事例）を提示して進め、受講者に報告してもらうという形式を取り入れる、というやり方を想定している。1回あたり2コマを使用する4期制科目であるが、以下の「授業計画」では、一コマずつ14回分の内容を示している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域的まとまり論の着想	「地域的まとまり」とその重層構造。その日本の特質。
第2回	地域的まとまりを「運営」するための制度的条件について	ミルトン・コトラーに学びつつ、地域社会運営の制度的必要上条件として、管轄領域の公的画定、法人格、課税権、条例制定権を析出する。また、これを失った地域社会がこれを回復するためにコトラーが考えた戦略を、日本的な観点から検討する。
第3回	地域的まとまり論の理論史と理論構成	オットー・ギールケ、フーゴ・プロイス、マックス・ヴェーバーらの諸説を参考に、理論的概念としての「地域的まとまり」を構成する。
第4回	自治会・町内会論	コトラーの4条件を民間的原理の上に回復する地域組織として自治会・町内会を捉え、その組織的特質と歴史とを論ずる。

第5回	コミュニティ政策の歴史 開始から1980年代まで	1969年の国民生活審議会の著名な文書を端緒として、その後展開されたいくつかの分野のコミュニティ政策を分析する。
第6回	コミュニティセンター自主管理政策	1980年代までの定番政策であったコミュニティ・センターを核とするコミュニティ形成の政策が持った意味を考える。地域福祉的な新しい様相を持ったコミュニティ政策が登場し始める場面を、具体的な事例をもとに検討する。
第7回	1990年代のコミュニティ政策	地域自治区制度の設計思想を分析し、今世紀のコミュニティ政策の基本的傾向を探る。地域自治区制度や独自条例方式など、様々な現代の事例を通じて現在の都市内分権の共通の特徴を探る。
第8回	第27次地方制度調査会答申と地域自治区制度の成立	いくつかの自治体で実践されている都市内分権の事例を分析する。
第9回	日本型都市内分権の現代的傾向	日本の協働型都市内分権とは対極にあるといえるドイツの参加型都市内分権を紹介する。
第10回	日本の都市内分権制度の事例研究	ドイツの都市内分権は、特にその政治的性格においてかなり特異であるので、それ以外の国、例えばイギリス、スコットランド、フランスといった国々、あるいはフィリピンなどのアジア諸国の都市内分権制度を取り上げ、国際比較的に位置づけておく作業を行う。
第11回	ドイツ都市内分権	普遍的な都市内分権制度とはいえないが、コミュニティ・レベルに決定権を分散しているといえる事例として、都市計画分野のまちづくり条例を取り上げ、いくつかの事例を検討することを通じて、コミュニティ制度論の視野を広げる。
第12回	その他の国の都市内分権	さらに、地域福祉、社会教育、学校教育などの分野にも目を広げ、コミュニティ政策の現代的様相を分析する。
第13回	まちづくり条例論	
第14回	個別分野のコミュニティ政策	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で述べた内容を十分に復習し、関連参考文献を読むこと。また、ほぼ毎回、事前に授業支援システムを通じて読んでおいてほしい文献を提供するので、これを読んで授業に臨んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。また、授業で報告をすることになったときには、とりわけ十分に準備を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に指示するが、拙著の『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）や『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）に、本科目の基本的なアイデアが展開されている。また、拙著『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）は、一般向けのブックレットで、平易に解説されている。

【成績評価の方法と基準】

開講時に相談して決めたいが、受講者が一度ずつ授業中に報告をしてもらうことを想定しており、その場合には授業での報告80%、授業中での討論・発言20%と考えている。期末レポート方式になった場合には、そのレポートが80%としたい。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を担当するのは久しぶりであるから、学生・院生からの直接の反応から気づいたことというものはない。このところ院生たちの間でコミュニティ政策への関心はやや強まっていると感じているので、ここ数年の研究を活かし、またこの数年の新しい動きにも留意していきたい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞コミュニティ政策、公共哲学、法社会学

＜研究テーマ＞都市内分権。地域法人制度。コミュニティカフェ。「領域団体」及び「市民社会」の概念史。

＜主要研究業績＞

単著『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

単著『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）

【Outline (in English)】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination or Reporting in the class: 80%、
Discussions in the class : 20%.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

公共政策研究 1

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学・連帯社会「政策学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策学を理解するために必要な基礎知識を、体系的に習得または学び直すことを目的とします。

【到達目標】

- ・公共政策に関する基礎的な理論やキーワードを説明できる。
- ・政策学の全体像を体系的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「政策学基礎」では、テキスト内在的に学習を進めます。つまり、テキストに即して体系的に、知識を習得、整理、補足します。原則として、受講者がレジュメを作成し、その報告に基づいて各授業の内容を検討します。報告に対しては、授業中に参加者全員で質疑・議論を行い、講評を通じてフィードバックを行います。また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する。 ・発表のデモンストレーション：第1章
第3,4回	公共政策とは何か？／アジェンダ設定	・テキスト第2章 ・テキスト第3章
第5,6回	政策問題の構造化／公共政策の手段	・テキスト第4章 ・テキスト第5章
第7,8回	規範的判断／政策決定と合理性	・テキスト第6章 ・テキスト第7章
第9,10回	政策決定と利益／政策決定と制度	・テキスト第8章 ・テキスト第9章
第11,12回	政策決定とアイデア／公共政策の実施	・テキスト第10章 ・テキスト第11章
第13,14回	公共政策の評価／公共政策管理のシステム	・テキスト第12章 ・テキスト第13章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉, 2020, 『公共政策学の基礎 第3版』有斐閣。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（30%）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞

2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林』12: 1-18.

2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.

2016『開発援助の介入論』東信堂.

【Outline (in English)】

(Course outline) The goal is to systematically acquire or revisit the foundational knowledge necessary to understand public policy studies.

(Learning Objectives) Be able to explain the basic theories and key terms related to public policy.

(Learning activities outside of classroom) Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy) Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

公共政策研究 2

備考（履修条件等）：公共政策学「政策学研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策学分野の研究に対する理解を深めることを目的とします。具体的には、公共政策学のテキストで紹介される体系的な知識と、実際の個別具体的な研究論文を関連付けながら、政策学研究について考察します。

【到達目標】

- ・公共政策に関する基礎的な理論やキーワードを説明できる。
- ・それらの理論やキーワードが、どのような研究において、どのように活用されているかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「政策学研究」では、テキストの外にある資料に重点をおいて学習を進めます。具体的には、テキストで紹介されている理論やキーワードが用いられている研究論文等を持ち寄り、その内容について発表し合います。その理論やキーワード、個別研究の内容を理解するとともに、その研究成果の政策学における位置づけについて考察します。授業内容は受講生の関心に基づいて決定されるため、以下の授業計画は暫定的なものです。

原則として、授業では受講者がレジメを作成し、その報告に基づいて政策学研究に関する実践的な知識や理解を深めます。報告に対しては、授業中に参加者全員で質疑・議論を行い、講評を通じてフィードバックを行います。

また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する。とりわけ、講読の方法・方針を共有する。 ・発表のデモンストレーション
第3,4回	公共政策とは何か？／アジェンダ設定	・テキスト第2章 ・テキスト第3章
第5,6回	政策問題の構造化／公共政策の手段	・テキスト第4章 ・テキスト第5章
第7,8回	規範的判断／政策決定と合理性	・テキスト第6章 ・テキスト第7章
第9,10回	政策決定と利益／政策決定と制度	・テキスト第8章 ・テキスト第9章
第11,12回	政策決定とアイディア／公共政策の実施	・テキスト第10章 ・テキスト第11章
第13,14回	公共政策の評価／公共政策管理のシステム	・テキスト第12章 ・テキスト第13章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉, 2020, 『公共政策学の基礎 第3版』有斐閣。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レジメによる報告（30%）及び期末レポート（30%）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞

2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林』12: 1-18.

2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂。

2016『開発援助の介入論』東信堂。

【Outline (in English)】

(Course outline) The goal is to deepen understanding of research in the field of policy studies. Specifically, the course will connect the systematic knowledge introduced in public policy textbooks with actual and specific research papers, allowing for a critical examination of policy studies research.

(Learning Objectives)

・ Be able to explain the basic theories and key terms related to public policy.

・ Be able to explain how these theories and key terms are utilized in specific research studies.

(Learning activities outside of classroom) Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy) Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

政治過程研究 1

山口 二郎

備考（履修条件等）：連帯社会「政治学概論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の民主政治において政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解する。

【到達目標】

日本の民主政治の特徴を理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義。

授業を補完するために課題を出しますので、提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	冷戦崩壊とグローバル化によって、日本の戦後はどう変わったのかを論じる。
第2回	1 政治とは何か	政治という活動の定義を明らかにする。
第3回	1 政治とは何か 2	政府の仕事とは何か、他のシステムとの対比で明らかにする。
第4回	1 市場と政府	市場に対する政府の任務を明らかにする。
第5回	2 政治に参加すること	政治参加と民主主義を論じる。
第6回	2 政治に参加すること	多数決と民主主義の関係について考える。
第7回	3 人間の不完全性と民主政治	人間の不完全性と民主政治－人間の認識におけるステレオタイプと言葉の問題について考える。
第8回	4 民主政治の理念とは何か	政治と生命の関係を考える。
第9回	4 民主政治の理念とは何か 2	政治における自由と平等について考える。
第10回	4 民主政治の理念とは何か 3	政治における共同体と国家について考える。
第11回	5 民主政治の基本的な原理と構成	民主政治と議会政治について考える。
第12回	5 民主政治の基本的な原理と構成 2	民主政治における政党と政治家、官僚制について考える。
第13回	6 政治はどのように展開されるのか	政策形成の動態について観察し、そのメカニズムを明らかにする。
第14回	7 民主政治のこれから	これからの民主政治の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口二郎 今を生きるための政治学 岩波書店

【参考書】

文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

課題レポートと期末レポートの総合による

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な議論の時間を確保したい

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムから講義の資料をあらかじめダウンロードしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学、行政学

<研究テーマ>現代日本の政策過程、政官関係

<主要研究業績>

内閣制度（東京大学出版会、2007年）

政権交代とは何だったのか（岩波書店、2012年）

【Outline (in English)】**1 Aim**

This lecture aims at providing basic theoretical framework and concepts to understand dynamics of modern democracy.

2 Method

Students need to read the textbook and other material and try to adapt concepts explained in lectures to actual political phenomena through reading news.

3 Grading

Grading will be decided based on mid-term essay(30%) and term-end examination(70%).

POL500A3（政治学 / Politics 500）

政治過程研究 2

山口 二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Jan-Werner Müller, *Democracy Rules* (Farrar, Straus and Giroux 2021)

上記の文献を講読する。

グローバル資本主義の危機が民主政治に及ぼす影響と、民主政治再建のための諸課題について考える。

【到達目標】

現代民主主義の変化、危機について理解を深める。

民主政治の再生の道筋について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、テキストを読み、翻訳しながら、著者の主張について吟味する。参加者は毎回指定された部分をあらかじめ読み、翻訳を準備すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Jan-Werner Müller, <i>Democracy Rules</i> , chapter 1	訳読と討論
第2回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 1	訳読と討論
第3回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 1	訳読と討論
第4回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 2	訳読と討論
第5回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 2	訳読と討論
第6回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 2	訳読と討論
第7回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 3	訳読と討論
第8回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 3	訳読と討論
第9回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 3	訳読と討論
第10回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 4	訳読と討論
第11回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 4	訳読と討論
第12回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 4	訳読と討論
第13回	<i>Democracy Rules</i> , chapter 4	訳読と討論
第14回	<i>Democracy Rules</i> , Coda	訳読と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Colin Crouch, *Post-Democracy After the Crises*, Polity 2020

【参考書】

コリン・クラウチ ポストデモクラシー 青灯社 2007年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

予習の負担は大きいですが、それだけ得られるものがあるというのが先輩の感想。

【担当教員の専門分野等】

現代政治

民主主義論

民主主義へのオデッセイほか

【Outline (in English)】

This seminar aims at investigating changes and crisis of contemporary democracy caused by deterioration of the global capitalism, reading Jan-Werner Müller, *Democracy Rules* (Farrar, Straus and Giroux 2021).

行政理論研究 1

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「政策評価論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされていなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方を議論するものである。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】

本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の3点である。

- ①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
- ②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAOのプログラム評価、GPRA/GPRAMAの史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
- ③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウンタビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義はオンラインにて行う予定である。授業は土曜日の1限・2限の2コマ連続で実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形での討論を交える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この科目について、成績評価の方法についてなど
第2回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系的性、循環性、ロジックモデル
第3回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第4回	政策分析：政策分析に関して、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価

第5回	業績測定と自治体①：自治体評価がどのように組み立てられたのか。三重県の事例も含めて概説する。	事務事業評価、総合計画の評価
第6回	業績測定と自治体②：自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。	計画と評価、マニフェストと評価
第7回	業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。	NPMと評価、独法の歴史、3つの独法形態と評価
第8回	業績測定と独立行政法人②：地方独法の評価とその課題について議論する。	地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価
第9回	国の府省の評価①：政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。	中央省庁等改革と評価、総務省の行政評価局調査、政策評価法
第10回	国の府省の評価②：国の府省の政策評価の実像に迫る。あわせて行政事業レビューの取組を紹介する。	府省の自己評価、3つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
第11回	アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。	PPBS、プログラム評価、PGRA
第12回	アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうちGPRAの改革過程と論点を議論する。	GPRAMA、データドリブン、エビデンスベースド、APGs、CAPGs、評価の日米比較
第13回	評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。	評価の類型論、評価階層の理論（システマティックアプローチ）
第14回	評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。	評価をめぐる学説、科学主義と実用主義の対立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』晃洋書房、2020年。

【参考書】

今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブックス基礎行政学（第3版）』北樹出版、2015年。
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008年。
南島和久編『JAXAの研究開発と評価』晃洋書房、2020年。
馬場健・南島和久編『地方自治入門』法律文化社、2023年。
武藤博己監修、南島和久・堀内匠編著『自治体政策学』法律文化社、2024年。
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010年。
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018年。
武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014年。
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013年。
山谷清志『政策評価の理論とその展開』晃洋書房、1997年。
山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006年。

山谷清志編著『公共部門の評価と管理』晃洋書房、2010年。
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012年。
山谷清志監修、大島巖、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房、2020年。
山谷清志編『政策と行政』晃洋書房、2021年。
山谷清志『日本の政策評価』晃洋書房、2025年。

【成績評価の方法と基準】

討論への参加（40％）、期末レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

履修にはZoomに接続可能な機器が必要です。講義はZoomを利用して行います。

【その他の重要事項】

初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、najima■policy. ryukoku.ac.jp（「■」は「@」に、ピリオドは半角にしてください。）

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞行政学、政策学

＜研究テーマ＞政策評価の制度運用

＜主要研究業績＞『政策評価の行政学』（単著、晃洋書房）、『科学技術政策とアカウンタビリティ』（編著、晃洋書房）、『英国の諸相』（編著、創成社）、『地方自治入門』（編著、法律文化社）『自治体政策学』（編著、法律文化社）、『協働型評価とNPO』（共著、晃洋書房）、『JAXAの研究開発と評価』（編著、晃洋書房）、『政策と行政』（共著、ミネルヴァ書房）、『プログラム評価ハンドブック』（共著、晃洋書房）、『公共政策学』（編著、ミネルヴァ書房）、『「それでも大学が必要」と言われるために』（共著、創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第3版）』（編著、北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（共著、敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（共著、法大出版）、『組織としての大学』（共著、岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（共著、晃洋書房）など

【Outline (in English)】

Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

政策学研究 1

備考（履修条件等）：公共政策学「政策過程研究」と合同
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。
都市型社会の構造と特質を知り、こんにちにいたるまで歴史的にどのような政策類型が蓄積されてきたかを理解し、政策主体と〈政策・制度〉のありかたを理解する。そのうえで、政策過程がどのように進むのかを学ぶ。
この講義を通じて、各自の研究対象とする政策分野を政策学からとらえるための視角を養うこととなる。

【到達目標】

この講義の到達目標は以下である。
・公共政策が展開される前提であるこんにちの社会構造（都市型社会）の特質を理解する
・歴史的に形成されてきた政策類型をふまへ
・公共政策の過程の基礎を学び
・各自の研究対象とする政策分野をとらえる政策学の視角を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。
※初回開講時にはテキスト1章を読了して参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	の講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第2回	講義「政治・政策と市民」	都市型社会における〈政策・制度〉と市民の関係を学ぶ（第1章）
第3回	都市型社会の特性	都市型社会と政策の特性を学ぶ（第2章）
第4回	都市型社会の成立	政策の歴史と類型を学ぶ（第3章）
第5回	政策の多元化	政府の三層化と政策（第4章）
第6回	日本と近代化	日本の政策を条件づける近代化を整理（第5章）
第7回	政策の主体	都市型社会における政策主体の多様化を学ぶ（第6章）
第8回	政策の資源：政治技術と政策手法	政治技術と政策手法を学ぶ（第7章）
第9回	政策の資源：政府と資源の調達	政策の資源とその調達、政府の機能の転換を学ぶ（第8章）
第10回	政策型思考の特質	政策型思考の特質と論理を学ぶ（第9章）
第11回	政治思考の特質	政治思考と〈決断〉の特質を学ぶ（第10章）
第12回	政策型思考と政策主体	政策型思考の「習熟」を学ぶ（第11章）
第13回	政策の決定	政策の決定とその過程（第12章）

第14回 総括 振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキスト、配布資料、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】

松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991年。

【参考書】

石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。
土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。石

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：議論への参加（25%）、コメント（25%）の様子、授業の成果：授業内での報告（25%）、期末レポート（25%）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】

講義中、また講義後にコメントを集め、その内容を反映させている。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

Policies (and their systems) are the "foundation of life" for people living in today's society (urban-type society).
We'll learn the structure and characteristics of urban-type society, and understand the policy process.
It will develop your perspective for your research from the perspective of policy studies.
Learning Objectives;
- Understand the characteristics of today's social structure ('Urban-type Society'), which is the premise for public policy.
- Understand the policy types that have been formed historically.
- Understand the basics of the process of public policy and gain a policy studying' perspective.
Learning activities outside of classroom;
- Completion of textbook and related papers/books
Grading Criteria /Policy
- Participation 50%(discussion 25%, Presentation 25%)
- Achievement 50%(report on presentation 25%, the final report 25%)

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

政策学研究2

備考（履修条件等）：公共政策学「政策過程事例研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、政策過程理論を応用して個別行政分野の政策を考察する。まず、『政策形成の過程：民主主義の公共性』を用いて基本的な理論を確認する。次に事例研究を通じて政策過程についての理解を深める。例えば、市町村合併、防災対策、廃棄物処理などの事例から、各々のアクターが制度の中でどのように責任を負い対応していくのか。また、既存制度の中でアクターが外部もしくは内部の環境要因によって政策をどのように形成・漸進させていくのかを分析する。この過程を通じて政策過程に関する理解を高める。

【到達目標】

既存の政策形成過程の理法を理解し、個々の政策過程事例を考察する中で政策過程の視点・考え方など、政策過程に関する幅広い知識を習得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行う。まず政策過程の全対象について、事例を用いて復習する。その後、参加者の報告順を決め、報告およびそれについて質疑・討論の方法で進める。また、リアクションペーパーにおける質問事項等に対しては、次回の授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	ガイダンス	授業の概要を説明し、講義の狙いとテーマを確認する。受講生各自の研究テーマ・関心分野を紹介する。
第3.4回	政策過程とその主体について	政策過程の理論を確認する。政策過程に参加する主体とその行動について各政策段階で検討する。
第5.6回	政策と官僚、そして規制	官僚はなぜ規制したがるのか、その原因について考える。
第7.8回	政策事例① 市町村合併と公共施設の再編	市町村合併がもたらしたことに ついて、公共施設の統廃合問題 から考察する。
第9.10回	政策事例② 大都市制度と行政区	政令指定都市を事例として行政 区のあり方を考察する。
第11.12回	政策事例③ 自治体と廃棄物問題	自治体における廃棄物の処理と 課題について考察する。
第13.14回	政策事例④ ヤングケアラー問題	ヤングケアラーに関する対策と 課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

最初の授業で指示する。

【参考書】

C.E. リンドブロム、E.J. ウッドハウス著『政策形成の過程：民主主義と公共性』（東京大学出版会、2004年）
ハーバート・カウフマン著『官僚はなぜ規制したがるのか』（勁草書房、2015年）
松本三和夫『構造災』（岩波新書、2012年）

その他、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業における積極的議論への参加（60%）、報告またはレポート（40%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、環境政策

<研究テーマ> 国策と地方自治

<主要研究業績>

『廃棄物行政と自治の領域』 敬文堂 2024年

「合併政令市の引力と遠心力 浜松市行政区再編住民投票で問われた行革と自治区意識」『自治総研』2020年（第499号 pp.86-122）

「土砂災害危険区域と行政改革による行政の撤退戦略—浜松市北区引佐町鎮玉地域を事例に—」『年報中部の経済と社会』2019年（pp.69-80）

「指定廃棄物処理における自治のテリトリー」『自治総研』2019年（第489号 pp.45-82）

「『自区内処理の原則』と広域処理」『自治総研』2014年（第428号 pp.29-46、第429号 pp.45-65、第430号 pp.35-53）

「災害廃棄物の処理をめぐる」『月刊自治研』2012年（第637号 pp.56-65）

「『漂着ごみ』に見る古くて新しい公共の問題」小原・寄本編著『新しい公共と自治の現場』コモンズ 2011年（pp.202-216）

「廃棄物問題から考える合併・参加・住民組織の論点」『環境自治体白書 2008年版』環境自治体会議編 2008年（pp.40-52）

『市民参加・合意形成手法事例とその検証』（共著）市民がつくる政策調査会 2005年

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge about policy process. First, we confirm the basic theory by using "Policy-Making Process" (Charles E. Lindblom and Edward J. Woodhouse 2004). Next, we will deepen our understanding of policy processes through case studies. We analyze what kind of responsibility is taken care of in the system and how the main actor forms and progresses policies by external or internal environmental factors in existing system. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 40%、in class contribution: 60%.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

連帯社会とサードセクター

伊丹 謙太郎、池本 修悟、WOO JONGWON

備考（履修条件等）：連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では連帯社会とは何か、それを担うサードセクター（労働組合、協同組合、NPO、社会的企業など）の役割は何かを学ぶ。

【到達目標】

連帯社会は、これまでの社会とはどこが違うのか、また連帯社会の構築と存続を担う主体であるサードセクターはどのような役割を果たし、どう協力しあうのかを理論的、実践的に学ぶことを目標とする。この授業を履修することによって、本インスティテュートの学生にふさわしい姿勢、知識を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は講師（専任、非常勤）および実践家による講義を行ったうえで、討論を行うという形で進める。
授業形式は対面授業を予定しているが状況次第でオンライン実施に変更される。なお、Zoomによるオンライン形式で行う場合は、ZoomのID・パスコードについては、初回授業前に学習支援システムに掲載する。
最終授業では、これまでの授業を踏まえて、連帯社会の構築、存続のために何が必要かについて、学生が各自報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	連帯社会とサードセクター	専任教員による問題提起
第2回	NPO活動（1）、（2）	NPOの実践家による講義
第3回	労働組合の活動（1）、（2）	労働組合の実践家による講義
第4回	協同組合の活動（1）、（2）	協同組合の実践家による講義
第5回	共生と連帯の社会をデザインする	外部講師による特別講義
第6回	労働組合の活動（3）、（4）	労働組合の実践家による講義
第7回	NPOの活動（3）、（4）	NPOの実践家による講義
第8回	協同組合の活動（3）、（4）	協同組合の実践家による講義
第9回	フィールドスタディ	NPOを訪問し、実態を学ぶ
第10回	労働組合の活動（5）、（6）	労働組合の実践家による講義
第11回	協同組合の活動（5）、（6）	協同組合の実践家による講義
第12回	NPOの活動（5）、（6）	NPOの実践家による講義
第13回	労働組合の活動（7）、協同組合の活動（7）	労働組合の実践家、協同組合の実践家による講義
第14回	総括	これまでの授業を踏まえて、連帯社会の構築、存続のために何が必要かを各自が報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。「リポート」（最終報告書）の作成は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
特に指定しない。
随時、授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点が60％、授業への貢献が20％、最終報告20％。なお、平常点は、予習をしたうえで授業に出席しているかどうかで測り、授業への貢献は討議への積極的な参加で測る。最終報告は、提出されたレポートとその発表内容で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

連帯社会、サードセクターの理論的枠組みを考察するとともに各分野における実践例を提示する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】

非常勤講師、実践家に報告をしてもらうために、上記の授業計画を変更することがある。

【担当教員の専門分野等】

禹宗杭

＜専門領域＞労使関係論
＜研究テーマ＞労働組合の機能、労働組合の意義、労使関係の国際比較、労使関係のダイナミズム
＜主要研究業績＞
・（沼尻晃伸と共著）『〈一人前〉と戦後社会―対等を求めて―』（岩波書店、2024年）ほか

伊丹謙太郎

＜専攻＞
協同組合論、公共哲学
＜研究テーマ＞
協同組合思想、協同組合運動史、デジタル経済と協同主義、非営利組織連携論、賀川豊彦研究
＜主要研究業績＞

『協同組合 未来への選択』（共著）日本経済評論社、2014 ほか

池本修悟

＜研究テーマ＞
・サードセクターにおけるリーダーシップの研究と協働の促進
・コミュニティ・オーガナイズングについての比較研究
・コミュニティ・オーガナイズング以外の連帯・協働を促す手法の研究
＜主要研究業績＞
『共助と連帯―労働者自主福祉の意義と課題・改訂版』（共著）明石書店

【Outline (in English)】

In this course, students learn the concept of solidarity-based society and the roles of third sector actors such as trade unions, co-operatives, NPOs, and social enterprises.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

立法学研究 1

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「立法学研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和21年に、既に末弘巖太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に、立法プロセスを見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。

【授業目的】

我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をすることにより、立法における「制度設計」の在り方を習得する。

【到達目標】

- ・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までのプロセスについて、正確な知識を得る。
- ・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
- ・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

- ①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。
- ②授業は、講義を中心とするが、講義は参加者との対話を重視しながら展開する。必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせで行う。
- ③本講義の最大の特徴は、最後の2回に行う立法演習である。講義において会得した発想方法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。

※本講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1.序論～立法学とは 2.現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など

3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1.内閣による法案提出プロセス 2.政党内の意思決定システム 3.議員立法のプロセスの特徴 4.民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1.国会審議過程の現状と課題 2.内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3.ねじれ国会下における立法傾向 4.ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1.「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法41条の解釈まで 2.現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3.「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。 提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。
13-14	立法演習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方 第2版』有斐閣（2021年）

【成績評価の方法と基準】

平常点30％・立法演習40％・報告30％。

立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。

なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットでも対応可）。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 立法学

<研究テーマ> 立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』（自治研究2009年8月・第一法規）
- ②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス(1)(2)」（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

【Outline (in English)】

Course outline;

Japanese jurisprudence has been developed mainly on the interpretation of laws. Already in 1946, Dr.Suehiro pointed out that the work of drafting laws and regulations is done only by the professional skills of the bureaucrats concerned, and that there has been no scientific study. In this lecture, we will try to systematize "Legislation Studies" based on the results of these studies.

Learning Objectives;

To acquire an accurate knowledge of Japanese legislation, from the planning stage to the enactment and enforcement stage.

To gain knowledge of the structure of laws and regulations and the means of achieving policy objectives, and to be able to design simple systems and draft articles.

Grading Criteria/Policy;

The class will consist mainly of lectures, but will also include a combination of research, presentations and discussions by the participants as necessary.

The most important feature of this course is the legislative exercise held in the last two sessions. Students will design a legal system for a given issue, using the ideas and tools they have acquired in the lectures, and report on and discuss the legal system they have designed. Participation in the legislative exercise is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures

POL500A3（政治学 / Politics 500）

自治体研究 1

備考（履修条件等）：公共政策学「地方自治論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・日本においては、いづどこで大規模災害が発生してもおかしくない状況にある。日本が地理的にもつ地震などの災害だけでなく、近代以来の工業化は、世界的な気候変動のよる災害、さらには日本におけるインフラ整備の歴史的条件からその一斉劣化も災害的事故リスクの増大を招いてきた。地方自治の意義は、こうした災害対応のときに鋭く意識されるが、しかし実は、私たちの日常に、深く入り込んでいる。それを透徹する視角をテキストで捉え、実践の現場とつなげるのが本講義の本旨である。

・本授業の前半では、テキスト「地方自治講義」を精読する。精読をふまえて参加者どうしでディスカッションを行い、

・講義の後半は、自治の課題の現場をめぐる報告とディスカッションが中心になる。ゲストスピーカーを招聘する場合もある。その対象は、参加者の研究の方向や関心も聞きながら確定する。災害対応、気候変動、条件不利地域、地域金融、自治体議会、「自治の萎縮」などの自治体における課題状況とそこでの模索などが候補となる。

【到達目標】

・他者の報告に対して、自分の意見を的確に述べることができる。

・地方自治の書籍を精読し、著者の意見を整理した上で、自らの意見と根拠を明確に述べるとともに、論点を示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【シラバスの更新について】

・当初シラバスでは第1回から第8回までをゲストスピーカーによる報告をふまえたディスカッション中心、第9回以降をテキスト精読としていたが、調整の都合から前後を入れ替え、テキスト精読を前半とし、後半についてはゲストスピーカーまたは講師による報告とディスカッションとする。

・第1回、第2回はオリエンテーション、第3回からは指定されたテキストの精読を前提として、担当する項目において「著者の意図」「報告者の意見とその根拠」「論点」の報告を踏まえたディスカッションにより授業を進める。

・テキスト読了後、ゲストスピーカー、または講師の報告をふまえた演習型講義を行う。

・授業の主体は受講者であり、積極的な発言を望む。また、事前に参考書を読んでおくなど、関連する情報を集め、問題意識を高めておくことを推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業全体の概要、目的を説明。それぞれの研究分野や関心を踏まえ、講義後半を検討する。
第2回	地方自治をとらえる目線	講師による概説
第3回	テキスト精読①	今井照『地方自治講義』精読：第1章
第4回	テキスト精読②	今井照『地方自治講義』精読：第2章
第5回	テキスト精読③	今井照『地方自治講義』精読：第3章
第6回	中間まとめ	前半の振り返り（調整回）

第7回	テキスト精読④	今井照『地方自治講義』精読：第4章
第8回	テキスト精読⑤	今井照『地方自治講義』精読：第5章
第9回	テキスト精読⑥	今井照『地方自治講義』精読：第6章
第10回	テキスト振り返り	テキスト精読の総括
第11回	自治の課題と模索①	特定課題について報告
第12回	自治の課題と模索②	報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第13回	自治の課題と模索③	特定課題についての報告
第14回	自治の課題と模索④	報告を踏まえ、ディスカッションを行う。 全体のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・第1回、第2回は講師の説明・講義で進む。テキストの購入を準備されたい。

・第3回から第10回までは指定されたテキストの精読を前提として、担当する分野において「筆者の意図」「報告者の意見とその根拠」「論点」の整理と報告を求める。

・各人が各回のテーマに関連する情報を集め問題意識を高めておくことが望ましい。

・第11回から第14回は、報告についてそれぞれ事前に関心を高めるための情報収集を行い、報告をしっかりと聴く、積極的に質問や意見を述べ、ディスカッションに参加すること。

【テキスト（教科書）】

・今井照（2017）『地方自治講義』 筑摩書房

【参考書】

・武藤博己・南島和久編『自治体政策論』法律文化社、2024年。

・石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。

【成績評価の方法と基準】

授業中の意見発表や議論参加への積極性（50%）、報告資料及び説明（50%）

【学生の意見等からの気づき】

・学生の論文作成テーマと関わるかどうかに限らず、学生による様々な質問・意見から相互に学びあうことができる。講義中の質疑による理解の深まりに期待したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【渡部】

〈専門領域〉

地方自治、公共政策、住民論

〈研究テーマ〉

住民概念、地方自治、原発避難

〈研究業績〉

- ①『住民論 統治の対象としての住民から自治の主体としての住民へ』 公人の友社（2020.12） 自治体学会【研究論文賞受賞】
- ②「福島原発事故避難の実態と「住民」概念の転換－統治のための住民から住民による自治へ－」 自治体学 vol.31-1（2017.11） 自治体学会【自治体学研究奨励賞受賞】
- ③「震災復興の現状と課題」 地方自治職員研修通巻708号（2018.3） 公職研
- ④「人口減少社会における「住民」概念の考察～福島原発事故避難自治体の実態から～」 自治実務セミナー 2018年12月 第一法規
- ⑤「「住民」概念の研究～統治される対象としての住民から自治の主体としての住民へ～」 公共政策志林第7号 2019年3月 法政大学大学院公共政策研究科

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・In Japan, a large-scale disaster could occur anytime and anywhere. When a large-scale disaster or accident occurs, requiring the evacuation of residents, the significance of local autonomy is once again called into question.

- ・ In the first half of this class, we will discuss the Fukushima nuclear power plant accident based on reports from guest speakers about various issues occurring in the local government field.

- ・ In the second half of the class, participants select an area of local government that they are interested in from the textbook “Lecture on Local Government,” and have a discussion based on the report to learn about the significance of local government.

【Learning Objectives】

- ・ Able to accurately express one’s opinion in response to reports from others.

- ・ After reading books on local autonomy and organizing the author’s opinions, you will be able to clearly state your opinion with evidence and present the points at issue.

【Learning activities outside of classroom】

- ・ No special preparation study or review time is required from the 1st to the 8th class, but students should concentrate during class, actively ask questions and express their opinions, and participate in the discussion.

- ・ From the 9th to the 14th sessions, participants are asked to organize and report on “the author’s intent”, “their own opinion and its basis”, and “points at issue” in their field of expertise.

- ・ The participants are the main actors in the class, and they are expected to actively speak out. We also recommend that you read reference books in advance to gather relevant information and increase your awareness of the issues.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Activeness in expressing opinions and participating in discussions during class (50%), reporting materials and explanations (50%).

POL500A3（政治学 / Politics 500）

公務員制度研究

備考（履修条件等）：公共政策学、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国家公務員の勤務環境、人材確保のための取組、給与制度の見直し、政官関係の変遷などに触れながら、日本の行政機構における組織・人事管理全般について考察する。その上で、民間企業における組織・人事管理との比較なども意識しながら、新時代の公務員の在り方としてどのような方向性が考えられるかについて探求する。必要に応じ、主要諸外国（英米独仏）との比較などについても解説する。

【到達目標】

日本の国家公務員制度の具体的内容及び制度の背景にある事情について理解を深めるとともに、国際比較の中における日本の国家公務員制度の特色などについても考察する。これらを踏まえ、今後、行政における組織・人事管理において必要な事柄とは何か、行政を活性化させていくために必要なポイントはどこにあるのか、新時代の公務員の人事管理の在り方としてどのような方向性が考えられるか、などについて自ら考える力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義は対面で行う。日本の国家公務員制度の成り立ち、全体像について概観した上で、採用や昇任、人事評価の仕組み、給与制度、勤務環境などいくつかの主要分野に関する現行制度や運用状況を解説し、そのような制度設計や運用状況となっている背景事情などにも触れる。このほか、国際比較における日本の特色や近年の公務員制度改革の動向、政官関係の状況等についても言及していく。

各回の授業の前半では、教員がその回に取り上げる分野について解説を行い、後半では受講される方自らのご意見や疑問点などをきっかけとした自由討議を行い、更なる研究を進めるに当たっての視座を提供していくことを主眼とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・第2回	国家公務員制度の全体像と採用、昇進、人事評価	日本の国家公務員制度の成り立ちや全体像を概観した後で、近年の人材確保方策、国家公務員の昇進実態、国家公務員の人事評価制度と近年の見直し等について解説し、人材確保策や人事評価の在り方などについて考える。
第3回	給与	国家公務員給与の決定過程、人事評価を用いた昇給やボーナスの決定方法、諸手当、近年の給与制度の見直し（人材確保や組織パフォーマンスの向上、働き方やライフスタイルの多様化への対応）等について解説し、適切な給与水準や給与制度の設計を考えるに当たってどのような視点が重要かを考える。

第5回・第6回 勤務環境の整備

第7回・第8回 官民間の人事交流、非常勤職員の現状

第9回・第10回 シニア職員の活用、退職管理、研修

第11回・第12回 身分保障、服務、懲戒、公平審査

第13回・第14回 公務員制度改革、公務員制度の将来像

フレックスタイム制度やテレワークの現状、その他の働き方改革の推進など、職員の多様なワークスタイル・ライフスタイルを踏まえた勤務環境の整備のための取組等について解説し、公務員の勤務環境の更なる整備に向けてどのような事柄が考えられるかについて検討する。

中途採用の拡大や任期付職員の積極的な活用など民間人材を公務に誘致するための取組やその現状、非常勤職員の制度等について解説する。その上で、複雑化・高度化する行政課題に対応するため、行政においてどのような人材確保策が求められるのか、官民の円滑な人材流動化のためにはどのようなことが必要かを考える。

定年年齢の60歳から65歳への引上げや再就職規制等について解説し、シニア職員の役割や活用方策としてどのようなことが考えられるか検討する。また、国家公務員に対してどのような研修が行われているかについて概観し、今後必要となってくる研修メニューなどについて考える。国家公務員の身分保障の在り方、国家公務員として守るべきルール（服務）やそれに反した場合の制裁（懲戒処分）、職員が懲戒処分等の不利益な処分を受けた際の人事院への不服申立制度等について解説し、公務に特有の中立・公正な人事管理を実現するためには何が必要かについて検討する。

1990年代以降の政官関係の変化、内閣人事局の設置（2014年）に至る公務員制度改革の動向等を中心に解説し、政治と行政の適切な関係とはどのようなものかについて考える。また、講義全体を振り返り、将来の在るべき公務員制度を設計するに当たり、どういった視点が必要かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

村松岐夫編著『公務員人事改革—最新米・英・独・仏の動向を踏まえて—』（2018年学陽書房）
 村松岐夫編著『最新公務員制度改革』（2012年学陽書房）
 西尾勝著『行政学〔新版〕』（2001年有斐閣）
 西尾隆著『公務員制』（行政学叢書①）（2018年東京大学出版会）
 吉田耕三・尾西雅博編『逐条国家公務員法〈第2次全訂版〉』（2023年学陽書房）
 吉田耕三編著『公務員給与法精義第五次全訂版』（2018年学陽書房）
 嶋田博子著『職業としての官僚』（2022年岩波新書）
 人事院HP <https://www.jinji.go.jp/top.html>
 内閣官房内閣人事局 HP <https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/index.html>
 内閣官房（旧）国家公務員制度改革推進本部 HP <https://www.gyoukaku.go.jp/koumuin/index.html>

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 50 %（毎回の授業において、その回における課題を理解して自らの理解の上に立って議論に参加・貢献しているか）
- 小論文（レポート） 50 %（自ら選択する課題について考察を行った小論文）

【学生の意見等からの気づき】

学生自らが問題点を発見し考察を深めることができるようにします。

【その他の重要事項】

教員は、人事院に在職し、国家公務員の人事行政の制度及びその運用を実際に担当している。さらに内閣人事局などへの出向経験を通じ、人事院以外の角度からも人事行政に関わってきている。

これらを通じた経験や知見を紹介し、近年の公務員制度の動向や将来の在るべき公務員像などについても幅広く議論していく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞公務員制度

＜研究テーマ＞近年における我が国の公務員制度の動向

＜主要研究業績＞

森園幸男ほか編『逐条国家公務員法全訂版』（2015年学陽書房）（共著）

吉田耕三編著『公務員給与法精義第五次全訂版』（2018年学陽書房）（共著）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire Japanese civil service system including international comparison(U.K.,U.S.A.,Germany and France).

This course deals with detailed explanation of the Japanese civil system and its actual implementation.

Your overall grade in this course will be decided based on the following

Short reports: 50%,In-class contribution: 50%

POL500A3（政治学 / Politics 500）

雇用・労働政策研究

備考（履修条件等）：公共政策学・連帯社会「雇用労働政策研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公労使三者構成の審議会において労使団体と政府（厚生労働省）の間で行われる対立と妥協のメカニズムを中心に、その延長戦としての国会における審議や修正も含め、具体的な労働立法の政策決定過程を跡づける形で、労働法制の内容を説明する。いわば、完成品としての労働法ではなく、製造過程に着目した労働法の講義である。

【到達目標】

現代日本におけるさまざまな雇用労働問題を、表層的なマスコミ報道等に踊らされることなく、雇用システムと労働法制の複雑な関係を踏まえて理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン授業を予定している。

各コマとも、前半は下記テキスト（『日本の労働法政策』）に沿って概略の説明を行い、後半はそれに基づきフリーディスカッションとする。

あらかじめテキストを読んできたことを前提に、毎回のトピックについて各自の職業経験に基づく意見を尋ねることがあるので、各自用意しておくことが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1.2回	イントロダクション、労働力需給調整システム、労働市場のセーフティネット	全体の概観、労働者派遣事業と職業紹介事業、雇用保険、生活保護、求職者支援制など
第3.4回	雇用政策の諸相、高齢者・障害者の雇用就業政策	雇用政策思想、外国人雇用対策、高齢者、障害者など
第5.6回	職業教育訓練政策、労働基準監督システム、労災保険、労働安全衛生政策	職業訓練、職業教育、若年者、過労死・過労自殺、過重労働・メンタルヘルス・受動喫煙など
第7.8回	労働時間政策、賃金処遇政策	時間外・休日労働、年休、裁量労働制、最低賃金など
第9.10回	賃金処遇政策、労働契約政策	非正規均等待遇、解雇規制、有期契約、労働条件変更、フリーランスなど
第11.12回	男女平等政策、ワークライフバランス、ハラスメント	男女平等、育児・介護休業、セクハラ・パワハラなど
第13.14回	集团的労使関係システム	労働組合、労使協議制、個別労使紛争など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の労働法政策』 労働政策研究・研修機構(2018年)

なお、刊行からかなり時間が経っているため、アップデートしたPDFファイルを受講者に配布する予定。

【参考書】

濱口桂一郎『新しい労働社会』 岩波新書(2009年)

濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』 日経文庫(2011年)

濱口桂一郎『若者と労働』 中公新書ラクレ (2013年)

濱口桂一郎『日本の雇用と中高年』 ちくま新書 (2014年)

濱口桂一郎『働く女子の運命』 文春新書(2015年)

濱口桂一郎・海老原嗣生『働き方改革の世界史』 ちくま新書(2020年)

濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』 岩波新書(2021年)

濱口桂一郎『賃金とは何か』 朝日新書(2024年)

なお、関連する論文等が講師ホームページにアップされているので、適宜読むこと。

<http://hamachan.on.coocan.jp/>

【成績評価の方法と基準】

参加人数にもよるが、今のところレポート作成を予定している。レポートの提出先は、次の講師メールアドレスとする。

SGB00231@nifty.com

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

労働法政策

< 研究テーマ >

日本とEUの労働法政策、日本の個別労働紛争の分析

< 主要研究業績 >

『EUの労働法政策』、『日本の労働法政策』、『日本の雇用終了』、『日本の雇用紛争』、『団結と参加』（いずれも労働政策研究・研修機構）

【Outline (in English)】

It is not a lecture on labor law as a finished product, but one on labor law focusing on the manufacturing process.

The goal of this course is to explain the contents of labor legislation in such a way as to trace the decision making process.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

: Grading will be decided based on short reports.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

政策法務論

備考（履修条件等）：公共政策学、サステナビリティ学と合同
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

2000年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」という概念が唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者の間で「政策法務」という言葉は一般的ではない。地方と中央のこの意識の差に着目し、「自治体政策法務とは何か」について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。

【授業目的】

現在の自治体法務が直面している問題点を検討する。特に、条例論について深掘りする。

【到達目標】

- ・自治体政策法務のイメージをつかむ。
- ・条例案立案のポイントをつかむ。
- ・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・現代の自治体法務が直面している問題を整理し、自治体法務の向上のためには何が必要かを深掘りする。
- ・特に、条例立案の際に強調される「立法事実論」について深く学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

- ①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
- ②授業は、講義を中心とする。講義は、参加者との対話を重視しながら展開する。
- ③本講義の最後の2回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。
- ④立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1.はじめに～「政策法務」とは？ 2.自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政 府とGHQの攻防	1.GHQ民政局内における条文の 変遷とその意味するところ～ ホームルール制とチャーター 2.日本側草案の起草～民政局案 との対比 3.チャーター制定権の変貌

5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1.基本法・基本条例の法規範的性格の稀薄性 2.法体系上の位置づけ 3.自治基本条例の意義 4.民主的契機としての住民投票 5.議会基本条例の意義
7-8	条例論	1.条例の定義 2.条例の類型 3.法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1.分権改革前の判例 2.比例原則 3.分権改革後の判例 4.違憲審査基準論と合理性の基準 5.合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）
 神崎一郎『「政策法務」試論～自治体と国のバラックス(1)(2)』（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
 「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）

【成績評価の方法と基準】

平常点30％・立法演習40％・報告30％。

立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
 なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学

<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究2009年8月・第一法規）
- ②「『政策法務』試論～自治体と国のバラックス(1)(2)」（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

【Outline (in English)】

Course outline;

Since the first decentralisation reform in 2000, the term "policy legal affairs" has been advocated mainly by those in charge of legal affairs in local governments. However, this term is not commonly used among legal staff in the central government. We will focus on this difference, and examine the problems faced by municipal legal affairs, while clarifying the concept of policy legal affairs.

Learning Objectives;

To get an idea of "policy legal affairs".

To understand the key points of drafting ordinances.

Grading Criteria/Policy;

The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.

Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

防災危機管理研究

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東日本大震災の発生以後、国土強靱化など防災対策の重要性が叫ばれている。そして、災害には大地震、風水害、火山など自然災害、原子力災害など大規模な事故、テロなど人為的災害など多様に存在する。現代は危機の時代であり、防災危機管理は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマとなっている。本授業は、大学院生が防災危機管理に強い人材になるよう支援する。

【到達目標】

- ①日本の国・自治体の防災危機管理の現状と課題を理解する。
- ②現状の政策と被害軽減の具体例を研究する。
- ③今後の国・自治体の防災危機管理政策のあるべき姿を研究する。
- ④大学院生自身の危機対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業形式☑対面授業

授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題を理解し、現実的な解決政策を研究する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。

また、ワークショップ形式も併用し、自らの頭で考え、仲間や講師と議論することで、より深い理解につながるように努めていく。授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後であってもメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・2回	ガイダンス及び国・自治体の防災危機管理政策の概観	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。 PPTおよび中央防災会議資料を使用して国、自治体の防災危機管理政策の全体像を説明する。
第3回・4回	大災害時の市民、行政の活動	阪神淡路大震災時の対応をした行政職員の生々しい記録を読む。その後、グループワークでKJ法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第5回・6回	地震防災と耐震化	地震防災の最重要課題である耐震化の政策の変遷について解説する。現在の、専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
第7回・8回	災害時の要配慮者支援	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を検討する。

第9回・10回 防災教育、ボランティア

東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子どもの生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。また被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを議論する。

第11回・12回 地域防災計画、防災条例、政策評価

東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を検討する。また防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について検討する。

第13回・14回 企業、行政等の事業継続（BCP）

企業や行政等は災害時に災害対応するだけでなく、自らの事業を継続していかなければならない。その計画がBCPであり、その内容と効果について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

防災政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」「防災白書」を事前に見ておいていただきたい。

また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業では、PPTや論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

【参考書】

鍵屋一「地域防災力強化宣言」ぎょうせい・2005年

鍵屋一「よくわかる自治体の地域防災・危機管理」学陽書房・2019年令和4年「防災白書」

【成績評価の方法と基準】

質疑への参加 70%（講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する）
リアクションペーパー等 30%

【学生の意見等からの気づき】

実務体験が評価されているので、今後もリアリティある講義を行いたい。また、学生と積極的に議論していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

地域防災、危機管理

<研究テーマ>

防災危機管理政策、建築物の耐震化、災害時要援護者支援、防災教育、人材育成、事業継続（BCP）

<主要研究業績>

・『都市災害を生き残る』『現代用語の基礎知識2009』2008年、自由国民社

・『ひな型でつくる福祉防災計画』（共著）2020年、東京都福祉保健財団

・『地域防災力強化宣言』2005年、ぎょうせい

【Outline (in English)】

(Course outline) The modern age is an age of crisis, and disaster risk management has become an unavoidable theme for citizens, governments, organizations, and businesses.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help graduate students to become strong in disaster prevention and crisis management.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports :30 %, in class contribution: 70%

POL500A3（政治学 / Politics 500）

ジェンダー政治研究2

備考（履修条件等）：公共政策学「ジェンダー政策研究」と合同
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ジェンダーの視点から政策について考察することを目的とする。1999年に男女共同参画社会基本法が施行されてから様々な分野でジェンダー政策が進められている。しかしGGGI（グローバルジェンダーギャップ指数）で比較すると日本の順位は100位以下が続いている。2024年7月に発表されたランキングは146ヶ国中118位である。政府が出している骨太方針でも女性の経済的自立や男女の賃金格差の是正、男女共同参画の視点に立った防災・復興等が挙げられている。本講義では、現在の日本のジェンダー政策の現状と課題を把握し、その要因を分析した上で課題解決の方策についてディスカッションを行う。ディスカッションを通じて考えたことを振り返り、ジェンダー政策の理解を深めるとともに今後を展望する。

【到達目標】

・21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけられた男女共同参画社会を実現するための基本法である「男女共同参画基本法」と基本法に基づいて5年ごとに定められる「男女共同参画基本計画」について理解する。
 ・2020年12月に策定された「第5次男女共同参画基本計画」で強調されている視点、「あらゆる分野における女性の活躍」、「安全・安心な暮らしの実現」、「男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備」、「推進体制の整備・強化」について理解する。特に今年は12月に「第6次男女共同参画基本計画」が閣議決定されることが予定されている。現状を踏まえ今後必要とされる改善策をディスカッションしたい。
 ・また、今年は第4回世界女性会議から30年が経過し、「北京+30」の取組の国際的レビューが行われる。国際的にジェンダー平等がどれほど達成され、課題は何かを理解し、日本の状況を相対的に考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進める。課題ごとのレポートを提出する。提出されたレポートをもとにプレゼンテーションとディスカッションで理解を深める。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定である。

授業は対面で開催します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的、進め方を説明する

第2回

国内外の男女共同参画に関する動向を理解する

○第2次世界大戦以降の国際社会の動き
 国連女性の地位委員会（CSW）、女子差別撤廃条約（CEDAW）

国際婦人年（1975年）以降の世界女性会議 持続可能な開発目標（SDGs）世界経済フォーラムが発表するGGGIなどから国際社会の変遷を捉える。
 ○国内の動向

1975年に総理府に設置された婦人問題企画推進本部、女子差別撤廃条約の批准、「国内行動計画」、「雇用機会均等法」、「男女共同参画社会基本法」、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」、女性の職業生活における活躍推進に関する法律、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」などから国内の変遷を捉える。

第3回

女共同参画基本法と男女共同参画基本計画①

1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020年12月に策定された第5次男女共同参画基本計画の12分野のうち一つ

第4回

女共同参画基本法と男女共同参画基本計画②

分野を選んで報告し議論する。1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020年12月に策定された第5次男女共同参画基本計画の12分野のうち一つ

第5回

ワーク・ライフ・バランス 働き方改革①

分野を選んで報告し議論する。勤続年数を重視しがちな年功序列的な処遇、長時間労働や転勤が当然というこれまでの男性中心の働き方を前提とする労働慣行（男性中心型労働慣行）について考える。
 また、いわゆる女性のM字カーブ問題等がいまだに解決しない要因を考える。
 女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることになった。また、「年取の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。

第6回

ワーク・ライフ・バランス 働き方改革②

女性も男性もワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためにはどのような解決策があるのか、実態や政策を踏まえて議論する。2021年育児・介護休業法が改正され男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設された。現在政策的課題として関心が高まっている男性の育児休業についても検討する。

第7回	女性の活躍推進	003年、男女共同参画推進本部は「社会のあらゆる分野において2020年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する(202030)」との目標を設定した。その後の動向を踏まえて、クォータ制やポジティブアクションについて議論する。	第13回	新たな課題②ー多様性に対応するジェンダー政策	選択的夫婦別姓や同性結婚、LGBTQをどのように考えるかが政策的な課題となっている。どのような政策的議論が進んでいるのか、どのような方向性を考えればいいのかを議論する。2023年に成立したLGBT理解増進法について説明する。夫婦別氏や同性婚に関する裁判結果にも言及する。
第8回	女性に対する暴力①	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデートDV、デートレイプドラッグ、JKビジネス、AV出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。	第14回	ジェンダーと政治	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。
第9回	女性に対する暴力②	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を業来するためにはどうすべきかを考える。改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。 【テキスト（教科書）】 毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。 【参考書】 ・第5次男女共同参画基本計画 http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html ・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて http://www.cao.go.jp/wlb/index.html ・女性に対する暴力 若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材 http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html NWEAC実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」 ・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html ・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html ・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ） http://www.gender.go.jp/c-challenge/ ・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進 http://www.jst.go.jp/diversity/index.html ・初等中等教育における男女共同参画 国立女性教育会館 https://www.nwec.jp/research/hqtuvq0000002ko2.html		
第10回	教育・メディア①	男女共同参画を推進し多様な選択を可能にするために学校教育はどうすればいいのか、教育現場をジェンダーの視点で見たときの課題を捉える。理工系を選択する女子学生が少なく研究者、技術者の女性割合が少ない状況を踏まえ、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成のための方策を考える。また学校現場の管理職の女性割合が少ない要因についても考える。その背景にあるアンコンシャスバイアスについても説明する。	【成績評価の方法と基準】 授業参加（ディスカッションでの発言）と課題ペーパーの提出（40%）レポート（60%） 【学生の意見等からの気づき】 多様な生活経験を持つ受講生が存在することを想定し、それぞれの経験を共有することによって、ディスカッションの充実を目指す。 【担当教員の専門分野等】 ＜専門領域＞ジェンダー論 ＜研究テーマ＞ジェンダーと家族 ジェンダーと教育・学習 ＜主要研究業績＞ 「教育と学習」『男女共同参画データブック2015』男女共同参画統計研究会編 ぎょうせい 2015 『国際比較にみる再開の家族と子育て』（編著）ミネルヴァ書房 2010 【Outline (in English)】 Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. Course outline This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course. Learning Objectives		
第11回	教育・メディア②	意識形成にメディアの与える影響は大きい。メディアの中で女性がどのように描かれているかについて広報媒体や映像を見ながら分析し、性別役割分担意識の解消のための広報・啓発のあり方について議論する。			
第12回	新たな課題①ー自然災害やコロナなどのリスクに対応するジェンダー政策	能登半島地震、東日本大震災等の経験から、性別、年齢や障害の有無等社会的立場によって影響が異なることが明らかにされたことから女性と男性で災害から受ける影響に配慮し、ジェンダーの視点から防災復興体制を確立することが求められている。何が問題だったのかを踏まえ、解決の方策について議論する。			

The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.

Lecture/Exercise (two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%

POL500A3（政治学 / Politics 500）

自治体議会論

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体議会の歴史、意義を学び、議会の課題、国内外における先進事例を調査研究することにより、二元代表機関としての議会・議員のあり方について理解を深める。これにより、執行機関との緊張関係の下で住民福祉の向上を図る議会・議員となることを目指す。

【到達目標】

研究活動の基本となる議会の意義、歴史、先進事例を調査研究し、学生間、講師とともに討議を行いそれぞれの問題意識に合わせて課題を深掘りしていく。これにより、現実の自治体議会の抱える課題と今後の議会改革方策を浮き彫りにできる。学生は洞察力を深め、討議による集合知を紡ぎだすことができる。学生が積極的に討議に参加し、自らと他者の理解を深める主体となっているかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業形式☑️対面授業。主として松下圭一「政策型思考と政治」の議会関係部分を講師が解説し、重要部分について討議、集合知の紡ぎ出しを行う。また、現実の自治体議会のニュース、トピックスを積極的に取り上げ、解説、討議を行うことで学生の洞察力を高める。授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後にメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	議会の成立、歴史、意義と歴史	議会の成立過程、歴史、意義を学ぶ
第3.4回	各国の議会	わが国、および各国の議会の歴史、意義を学ぶ
第5.6回	各国の自治体議会の歴史	わが国、および各国の自治体議会の歴史、意義を学ぶ
第7.8回	各国の自治体議会の課題	わが国、および各国の自治体議会の現状と課題を学ぶ
第9.10回	自治体議会のあり方について	現実の自治体議会の課題、今後の方向性を学ぶ
第11.12回	自治体議会改革について	自治体改革の歴史と概要を学ぶ
第13.14回	災害時の自治体議会・議員について	災害時の自治体議会・議員のありべき行動規範について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の住む自治体議会のホームページ、直近の議事録を読む。直近の自治体改革の動向を示す書籍、ホームページ等を調査しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

政策型思考と政治、松下圭一、東京大学出版会、1991年、4,644円
 なお、講師が必要な部分を資料として提供するので、購入する必要はない。

【参考書】

江藤俊昭「自治体議会学 議会改革の実践手法」等
 自治体議会改革フォーラムホームページ、www.gikai-kaikaku.net

【成績評価の方法と基準】

討議への参加など平常点 70 %

振り返りシート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生からは、講義内容が濃密であるとの意見があった。理解が難しいと思われる部分については、質疑を促すとともに丁寧に解説していきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自治体、防災

<研究テーマ>自治体議会・議員の災害対策

<主要研究業績>紀要論文、議員研修

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire the history and significance of the local council.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to deepen the understanding of the council and members of parliament as a dual representative body.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports :30 %, in class contribution: 70%

POL500A3（政治学 / Politics 500）

NPO論 1

池本 修悟

備考（履修条件等）：連帯社会「NPO論（現状と課題）Ⅰ」、公共政策学「NPO論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

連帯社会インスティテュートでは連帯社会をベースにした市場経済、社会システムのあり方、サードセクターの形成発展の課題を研究していきます。その中で本講座ではNPO（民間非営利組織）が現代地域・社会の課題解決と社会システム変革においてどのような役割を担っているのかNPOの理論と歴史、ネットワーク論、協働、社会的企業など、NPO発展のための社会的関係について学んでいきます。

【到達目標】

NPOに関する歴史や制度、社会的な役割、企業や行政との協働を含めた活動の形態などについて基本的な知識を獲得することができる。またNPOのポテンシャルを理解した上で、労働組合や協同組合とNPOが連携しどのような社会活動を行っていけるかを想定することが出来るようになっていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・教員による講義

各回の講義の資料は、事前に学習支援システムにアップする。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で学生との質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめる。

・学生の発表

講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを2回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。

・オフィス・アワー

講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。

・授業の形式

授業は、対面形式で行う予定。ただし、学生の希望や新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインで実施する可能性がある。その場合、ZoomのID・パスワード等を学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生のNPOに関する知識や関心を開き、今後の授業に反映させる。
第2回	関係構築・チーム構築	最終発表してもらうためのチーム分けを行う。

第3回	NPOの概要説明①	NPOの定義・歴史について古典を学ぶことでベースの考え方について知る。 ・NPOの要件 ・特定非営利活動法人のあらまし
第4回	NPOの概要説明②	NPOの現状について最新のデータを紐解くことで理解を深める。 ・データでみるNPO ・NPO関連施策
第5回	事例発表①	現場でNPOを運営しているスタッフによる事業内容と現状の課題の講義。
第6回	課題解決のためのワーク①	事例発表①で提示された課題についてグループごとに解決策を提案するワークを行う。
第7回	事例発表②	現場でNPOを運営しているスタッフによる事業内容と現状の課題の講義。
第8回	課題解決のためのワーク②	事例発表②で提示された課題についてグループごとに解決策を提案するワークを行う。
第9回	協力のテクノロジー①	NPO法を作った松原明氏が提唱する協力のテクノロジーを学ぶ。理論編。
第10回	協力のテクノロジー②	NPO法を作った松原明氏が提唱する協力のテクノロジーを学ぶ。実践編。
第11回	フィールドワーク①	労働組合、協同組合と連携しているNPOの現場見学を行う。
第12回	フィールドワーク②	労働組合、協同組合と連携しているNPOの現場見学を行う。
第13回	課題発表①	労働組合、協同組合、NPOが連帯して取り組むべき社会課題について発表してもらう。
第14回	課題発表②	労働組合、協同組合、NPOが連帯して取り組むべき社会課題について発表してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは定めない。授業中に配布する資料を用いて、授業を行う。

【参考書】

宮垣 元『NPOとは何か-災害ボランティア、地域の居場所から気候変動対策まで』（2024）

内閣府『特定非営利活動法人のあらまし』（2023）

金子郁容『ボランティア』岩波新書（1992）

金子郁容『新版コミュニティ・ソリューション：ボランティアな問題解決にむけて』岩波書店（2002）

レスリー・R・クラッチフィールド他『世界を変える偉大なNPOの条件——圧倒的な影響力を発揮している組織が実践する6つの原則』ダイヤモンド社（2012）

室田信一他『コミュニティ・オーガナイズの理論と実践：領域横断的に読み解く』有斐閣（2023）

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50％、「ふりかえり」とレポート50％。

レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

前述のように授業は対面で実施する予定だが、オンライン授業になる可能性もある。オンライン事業の場合は、必要なPCやWi-Fi設備などを用意したうえで、学習支援システム利用できる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

ボランティア

NPO

コミュニティ・オーガナイズシング

【Outline (in English)】

We will research market economies, social systems and the formation and development of the third sector based on solidarity society.

In this course, we will explore the role of non-profit organizations(NPOs) in solving contemporary regional and social issues, and in transforming social systems. We will study the theoretical and historical aspects of NPOs, network theory, collaboration, and social enterprises, focusing on social relationships for the development of NPOs.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

NPO論2

池本 修悟

備考（履修条件等）：連帯社会「NPO論（現状と課題）Ⅱ」、公共政策学「市民社会ガバナンス論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO論ⅠをNPOに関する歴史や制度、現状と課題などの概論、入門編とすると、NPO論Ⅱは渦中にあるNPOをどのように改善していくのか一緒に考えながら学ぶ、課題解決編として位置づける。第一線で活躍するNPOのリーダーを招き、現状の課題を明らかにしたうえで、改善提案を行う。

【到達目標】

上記の【授業の概要と目的】を踏まえ、現場のNPOの実践を学び改善提案を行うことで、ヒューマンリソース、資金、プランニングなどを中心に、NPOの運営状況の分析や経営を担う基礎的な知識と能力を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・教員による講義

各回の講義の資料は、事前に学習支援システムにアップする。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で学生との質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめる。

・学生の発表

講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを2回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。

・オフィス・アワー

講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。

・授業の形式

授業は、対面形式で行う予定。ただし、学生の希望や新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインで実施する可能性がある。その場合、ZoomのID・パスコード等については、学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生のNPOマネジメントの知識や関心を開き、今後の授業に反映させる。
第2回	関係構築・チーム構築	最終発表してもらうためのチーム分けを行う。
第3回	ゲストレクチャー	改善提案を行うNPOの現状を発表してもらう。
第4回	ゲストへのヒアリング	ゲスト講師に対して受講生からヒアリングを行う。また、今後のグループワークの進め方を検討する。

第5回	ケーススタディ① 労働組合とNPOの協働	労働組合と協働したNPOの事例紹介。
第6回	ディスカッション①	労働組合との協働のメリットデメリットを分析し、改善提案を行うNPOへの提案内容をブラッシュアップする。
第7回	ケーススタディ② 労働金庫とNPOの協働	労働金庫と協働したNPOの事例紹介。
第8回	ディスカッション②	労働金庫との協働のメリットデメリットを分析し、改善提案を行うNPOへの提案内容をブラッシュアップする。
第9回	ケーススタディ③ 共済組合とNPOの協働	共済組合と協働したNPOの事例紹介。
第10回	ディスカッション③	共済組合との協働のメリットデメリットを分析し、改善提案を行うNPOへの提案内容をブラッシュアップする。
第11回	ケーススタディ④ 生活協同組合とNPOの協働	生活協同組合と協働したNPOの事例紹介。
第12回	ディスカッション④	生活協同組合との協働のメリットデメリットを分析し、改善提案を行うNPOへの提案内容をブラッシュアップする。
第13回	改善提案発表①	第3回で発表していただいたNPOに対する改善提案を発表する。
第14回	改善提案発表②	第3回で発表していただいたNPOに対する改善提案を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは定めない。授業中に配布する資料を用いて、授業を行う。

【参考書】

宮垣 元『NPOとは何か-災害ボランティア、地域の居場所から気候変動対策まで』（2024）

内閣府『特定非営利活動法人のあらまし』（2023）

金子郁容『ボランティア』岩波新書（1992）

金子郁容『新版コミュニティ・ソリューション：ボランティアな問題解決にむけて』岩波書店（2002）

レスリー・R・クラッチフィールド他『世界を変える偉大なNPOの条件——圧倒的な影響力を発揮している組織が実践する6つの原則』ダイヤモンド社（2012）

室田信一他『コミュニティ・オーガナイズの理論と実践：領域横断的に読み解く』有斐閣（2023）

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50 %、「ふりかえり」とレポート50 %。

レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

前述のように授業は対面で実施する予定だが、オンライン授業になる可能性もある。オンライン事業の場合は、必要なPCやWi-Fi設備などを用意したうえで、学習支援システム利用できる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

ボランティア

NPO

福祉

社会的養護

コミュニティ・オーガナイズシング

ソーシャルビジネス

【Outline (in English)】

This class focuses on how to improve a nonprofit organization. By learning improvement of its human resources, financial resources, and planning methods, students could obtain basic knowledge and skills to improve a nonprofit organization.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

シンクタンク論

蒔田 純

備考（履修条件等）：公共政策学、連帯社会と合同

7月31日（木）1-5限

8月1日（金）1-5限

8月2日（土）1-4限

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的要素の概念的な意味と具体的な成り立ちに関する理解を踏まえ、それらにおいてシンクタンクがどのように位置づけられ、どのような役割を果たしているか、について考察する。

【到達目標】

・海外および国内の主要なシンクタンクについて、その機能と政策形成過程における役割について把握することができる。
 ・政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的概念を踏まえた上で、シンクタンクという視点を通して、それらの仕組みや特徴、課題等について理解することができる。
 ・「仮説」⇒「検証」という科学的思考の基礎を踏まえて、公共政策の文脈の中で、シンクタンクと他の諸要素との因果関係について論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業前半では、「シンクタンクとは何か」「シンクタンク論を学ぶ意義とは何か」について踏まえた上で、国家－社会間関係や政策形成過程等、公共政策の概念をシンクタンクの視点から考察し、加えて、政策形成への人材供給や資金の在り方等、シンクタンクをめぐる主要な論点について検討する。これに基づき後半では、機能や母体等の観点からシンクタンクを分類した上で、海外・日本のそれぞれにおけるシンクタンクについて、その政策形成における位置づけや役割について具体的に論ずる。

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布する。授業を行う上では、概念的な説明のみではなく、できるだけ具体的に現実における動きを踏まえた講義とすることを心掛けたい。場合によっては、実際にシンクタンクで働く方やその関係者等、各回のテーマに沿うゲストスピーカーを招聘し、実際におけるシンクタンクの動きをお話いただく。

授業は一方的な講義ではなく、受講者による質問・意見交換を歓迎する。一つの質問を基に教室中に議論が起こるような、参加型の学習空間としたい。授業後半では受講者に何らかのプレゼンテーションを行ってもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・日程等の説明、講師の自己紹介など
第2回	シンクタンクとは	シンクタンクの定義、歴史、機能など
第3回	国家と社会	国家－社会間関係、「政策ネットワーク論」など
第4回	政策形成とシンクタンク	政策形成過程の基礎、シンクタンクから見た政策形成過程
第5回	シンクタンクの人材	リボルビングドア、政治任用など

第6回	シンクタンクの資金	フィランソロピー、501(C)3など
第7回	シンクタンクの分類	コントラクト、アカデミック、アドボカシーなど
第8回	海外のシンクタンク①	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第9回	海外のシンクタンク②	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第10回	日本のシンクタンク	日本のシンクタンクについて
第11回	立法補佐機関とシンクタンク	議会の立法活動を補佐する機関としての立法補佐機関とシンクタンクの関係性について
第12回	団体とシンクタンク	利益集団・圧力団体とシンクタンクの関係性について
第13回	自治体シンクタンク	自治体が創設したシンクタンクについて
第14回	まとめ	全体のまとめと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

Alex Abella, 2009. Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire, Mariner Books.

飯尾潤. 2007. 『日本の統治構造』中央公論新社.

小池洋次（編著）. 2010. 『政策形成』ミネルヴァ書房.

Shimizu, Mika. 2015 “Think Tanks and Policy Analysis: Meeting the Challenges of Think Tanks in Japan”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., Policy Analysis in Japan, Policy Press at the University of Bristol, Chap.14.

Smith, James A. 1991. The Idea Brokers: Think Tanks and the Rise of the New Policy Elite, Free Press.

鈴木崇弘. 2007. 『日本に民主主義を起業する—自伝的シンクタンク論』第一書林.

鈴木崇弘. 2011. 「日本になぜ（米国型）シンクタンクが育たなかったのか？」『季刊政策・経営研究』 pp.30-50.

鈴木崇弘・上野真城子. 1993. 『世界のシンク・タンカー「知」と「治」を結ぶ装置』サイマル出版会.

鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎. 2005. 『シチズン・リテラシー—社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版

Smith, James, 1993. The Idea Brokers: ThinkTanks And The Ruse if The New Policy Elite, Free Press.

Suzuki, Takahiro. 2015. “Policy Analysis and Policymaking by Japanese Political Parties”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., Policy Analysis in Japan, Policy Press at the University of Bristol, Chap.11.

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史. 2008 『比較政治制度論』有斐閣.

横江公美. 2008. 『アメリカのシンクタンク 第五の権力の実相』ミネルヴァ書房.

横江公美. 2004. 『第五の権力 アメリカのシンクタンク』文藝春秋.

宮田智之. 2017. 『アメリカ政治とシンクタンカー政治運動としての政策研究機関—』東京大学出版会.

Weaver, R., 2002. Think Tanks and Civil Societies: Catalysts for Ideas and Action, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

出席・質疑・討論参加 45 %、レポート 35 %、プレゼンテーション 20 %

<評価基準>

質疑・討論参加：積極性、分析力、批判力等

レポート・プレゼンテーション：分析力、論理性、新規性、簡潔性等

【学生の意見等からの気づき】

基本的な政治学用語、政治学的な考え方についても適宜、解説を行う。

【その他の重要事項】

レポートの提出期限、内容等については適宜指定する。

やむを得ず授業を欠席する際は、事前あるいは事後にその理由につき連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞政治過程、議会、官僚機構、利益団体、地域政策
＜研究テーマ＞政治過程における民間アクターの役割、議会における立法補佐機関の機能、政策形成における政策ネットワークの役割など

＜主要研究業績＞

"Institutional development of legislative supporting agencies (LSAs) from a perspective of difference between presidential and parliamentary systems,"

Asian Journal of Comparative Politics, 2022 (<https://journals.sagepub.com/doi/pdf/10.1177/20578911221138475>).

"The institutional development of Legislative Supporting Agencies (LSAs) focusing on the differences among parliamentary-system countries," Parliaments, Estates and Representation, 42(3), 2022, pp.324-340.

"A Study of the Functions of Political Appointees from a Comparative Perspective," Asian Journal of Comparative Politics, 7(1), 2022, pp.146-161.

『立法補佐機関の制度と機能－各国比較と日本の実証分析』晃洋書房、2013年。

【Outline (in English)】

Examining how think-tanks play a role in the political process, based on the understandings regarding the concept meanings and concrete structures of fundamental factors about public policy including policy process, political structure, politician-bureaucrats relationship, nation-society relationship.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Class contribution: 45%、Reports : 35%、Presentation: 20%

＜ Evaluation standards＞

Class contribution: positiveness, analytical capability, critical capability

Reports and presentation: analytical capability, logicity, novelty, simplicity

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

国際政治の基礎理論 1

大野 知之

備考（履修条件等）：学部「国際政治学入門」、国際政治学「国際政治理論」、公共政策学・サステナビリティ学「国際政治学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学とは何か、その概要を解説するのが本講義の目的です。ロシアのウクライナ軍事侵攻や中国の台頭などによって第二次世界大戦後の国際秩序が大きく動揺していると言われます。今こそ国際関係を冷静に見る目が必要な時代はありません。入門論としての本講義では、国際政治を理解する上での基本的諸概念を学びます。

【到達目標】

本講義では、以下を到達目標とします。

1. 国際政治学の基本的概念を理解することによって、国際情勢を客観的に把握できるようにする。
2. 他人の意見の受け売りではなく、自分の知力で国際政治について意見を主張できるようにする。
3. 偏見、思い込み、固定観念を打破し、公平かつ価値中立的な国際政治に対する見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本として、講義形式で行います。この科目は3つのパートで構成されています。まず前半部は国際政治学の基本的な概念や基礎理論について学びます。その後、中間部では国際政治学の代表的なテーマについて前半部で学んだことを踏まえながら考えます。そして、後半部では、昨今の国際情勢についてこれまでの議論を踏まえながら考えます。また授業では、定期的によりアクションペーパーを提出してもらうほか、授業期間中に1回小テストを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～国際政治学入門の入門	国際政治学（国際関係論）とは何か、学問分野の基本的概念を解説します。
2	アナーキーとは何か？	国際政治の最も基本的な概念の一つであるアナーキーについて考えます。
3	リアリズム	国際政治学の主要理論のうち、リアリズムと呼ばれる理論について扱います。
4	リベラリズム	リベラリズムと呼ばれる国際政治理論について、経済的相互依存、国際制度、民主主義の3つの柱という観点から考えます。
5	国際政治における価値の役割	国際社会における規範の形成を中心に国際政治における価値の役割を考えます。
6	対外政策決定過程	外交政策はどのように決定されるのか？ 政策決定の理論のうち、アリソンモデルとパットナムの2層ゲームモデルを中心に考えます。

7	安全保障	安全保障について、同盟と抑止の2つの概念を取り上げて議論します。
8	国際政治経済	国際経済の政治的側面について、前半部で扱ったリアリズムとリベラリズムの視点から考えます。
9	国際機構の役割	国際連合を中心に国際機構の機能と役割について考えます。
10	戦後日本外交の展開	現在の日本外交について議論する際に欠かせない、戦後日本外交の歴史的展開について概観します。
11	冷戦後の東アジア国際関係	冷戦後の東アジアの国際政治について、朝鮮半島情勢と中国の台頭の2つを中心に検討します。
12	国境を超えた人の移動を取り巻く問題	難民や移民などの人の移動をめぐる問題が各国の内政と対外政策にどのような影響を与えているのか考察します。
13	理論からみた現代の国際紛争	合理的選択論など近年、日本でも取り上げられるようになってきた理論を中心にウクライナや中東での戦争について検討します。
14	学習のまとめ	半期の学習を振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに1時間、講義終了後に内容を復習するのに2時間、合計3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で毎回必ず使用する教科書は指定しません。

【参考書】

講義全体の参考書として、いくつか掲示します。さらに詳細な文献リストは講義内で紹介します。

○国際政治学の入門書・教科書

・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣 2023年）

・佐渡友哲、信夫隆司、柑本英雄著『国際関係論（第3版）』（弘文堂 2018年）

・草野大希、小川裕子、藤田泰昌『国際関係論入門』（ミネルヴァ書房 2023年）

・宮岡勲『入門講義 安全保障論（第2版）』（慶應義塾大学出版会 2023年）

○国際政治史・外交史

国際政治学を履修する際は、高校の世界史や大学の国際政治史、外交史の知識が役立ちます。参考文献としては、下記のものを挙げておきます。

・小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ』（有斐閣 2018年）

・添谷芳秀『入門講義 戦後日本外交史』（慶應義塾大学出版会 2023年）

・森聡、福田円編『入門講義 戦後国際政治史』（慶應義塾大学出版会 2022年）

【成績評価の方法と基準】

授業中に1回小テストを行います。（30%）

また最後に学期末試験を行います。（70%）

この両者を合計した100点満点で成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to explain an outline of international politics /international relations. The impact of Russian aggression against Ukrain and the rise of china is very heavily, but we must study the basic concepts of international affairs based upon academic discipline now.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

国際開発政策研究 1

武貞 稔彦

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「国際協力論」、国際政治学「国際協力政策研究1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ・貧困に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】

一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1)現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2)国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3)誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

報告対象とする文献については、2025年度秋学期開始前に学習支援システムを通じて通知／配布予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	オリエンテーション 国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景―途上国の貧困と先進国との格差―について概観する。
第3,4回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後1970年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第5,6回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980年代、90年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第7,8回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第9,10回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。

第11,12回 「開発」とは何か：開発と文化、社会科学

現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。

第13,14回 民間企業と国際協力

国際協力の主要なアクターの一つとなっている民間企業の活動について概観し、その将来像について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 ―途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末レポート(50%)、各回の担当報告の内容(30%)、授業やディスカッションへの貢献(20%)を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.

[Learning Objectives]

Completing the course, students are expected;

- 1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
- 2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and

3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.

[Learning Activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

アメリカ政治研究 1

中野 勝郎

その他属性：

(Learning Objectives) By the end of this course, student should be able to explore an intellectual tradition other than liberalism

(Learning activities outside of classroom) N/A

(Grading Criteria /Policy) Student's Class Performance,100%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治史や政治思想史研究の考察方法を修得するための一助として、アメリカ政治についての思想的・理論的考察をおこなう。

【到達目標】

- ・ 英語文献を正確に読む能力を高める。
- ・ アメリカ合衆国について、自由主義的伝統（進歩的思想）とは異なる政治思想への考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

英語文献を輪読する。

テキストについては、受講者の研究テーマや関心を踏まえて決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献輪読	文献1 (1)
第2回	文献輪読	文献1 (2)
第3回	文献輪読	文献1 (3)
第4回	文献輪読	文献1 (4)
第5回	文献輪読	文献1 (5)
第6回	文献輪読	文献1 (6)
第7回	文献輪読	文献1 (7)
第8回	文献輪読	文献1 (8)
第9回	文献輪読	文献1 (9)
第10回	文献輪読	文献1 (10)
第11回	文献輪読	文献1 (11)
第12回	文献輪読	文献1 (12)
第13回	文献輪読	文献1 (13)
第14回	文献輪読	文献1 (14)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談の上、決めます。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

アメリカ政治史・政治思想史

＜研究テーマ＞

アメリカの政治思想

＜主要研究業績＞

『アメリカ連邦体制の確立』（東京大学出版会、1993年）、『ワシントン 共和国の最初の大統領』（山川出版、2022年）

【Outline (in English)】

(Course outline) A historical approach to the U.S. politics

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

アメリカ政治研究 2

中野 勝郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治史や政治思想史研究の考察方法を修得するための一助として、アメリカ政治についての思想的・理論的考察をおこなう。

【到達目標】

- ・英語文献を正確に読む能力を高める。
- ・アメリカ合衆国について、自由主義的伝統（進歩的思想）とは異なる政治思想への考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

英語文献を輪読する。

テキストについては、受講者の研究テーマや関心を踏まえて決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献輪読	文献2（1）
第2回	文献輪読	文献2（2）
第3回	文献輪読	文献2（3）
第4回	文献輪読	文献2（4）
第5回	文献輪読	文献2（5）
第6回	文献輪読	文献2（6）
第7回	文献輪読	文献2（7）
第8回	文献輪読	文献2（8）
第9回	文献輪読	文献2（9）
第10回	文献輪読	文献2（10）
第11回	文献輪読	文献2（11）
第12回	文献輪読	文献2（12）
第13回	文献輪読	文献2（13）
第14回	文献輪読	文献2（14）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談の上、決めます。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

アメリカ政治史・政治思想史

＜研究テーマ＞

アメリカの政治思想

＜主要研究業績＞

『アメリカ連邦体制の確立』（東京大学出版会、1993年）、『ワシントン 共和国の最初の大統領』（山川出版、2022年）

【Outline (in English)】

(Course outline) A historical approach to the U.S. politics

(Learning Objectives) By the end of this course, student should be able to explore an intellectual tradition other than liberalism

(Learning activities outside of classroom) N/A

(Grading Criteria /Policy) Student's Class Performance,100%

POL500A3（政治学 / Politics 500）

日中関係政策論 1

熊倉 潤

備考（履修条件等）：国際政治学「対外政策研究（中国）（1）」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の対外政策及び現代中国史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等について、ゼミ形式で議論し、理解を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業を想定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	文革前の対外関係（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第3回	文革前の対外関係（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第4回	文革前の対外関係（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第5回	文革前の対外関係（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第6回	文革前の対外関係（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第7回	文革前の対外関係（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第8回	個人研究発表	院生個人の研究について、各自発表し議論する
第9回	文革中の対外関係（1）	受講者の研究報告とディスカッション
第10回	文革中の対外関係（2）	受講者の研究報告とディスカッション
第11回	文革中の対外関係（3）	受講者の研究報告とディスカッション
第12回	文革中の対外関係（4）	受講者の研究報告とディスカッション
第13回	文革中の対外関係（5）	受講者の研究報告とディスカッション
第14回	フィールドワーク	横浜中華街を訪問して媽祖廟、関帝廟等を実地見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しないが、授業で扱う論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生のディスカッションの時間を多くとる

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治

<研究テーマ>中国、旧ソ連の民族政策

<主要研究業績>

①『新疆ウイグル自治区——中国共産党支配の70年』中央公論新社、2022年。

②『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

など

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

日中関係政策論2

熊倉 潤

備考（履修条件等）：国際政治学「対外政策研究（中国）（2）」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の対外政策及び現代中国史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等について、ゼミ形式で論じ、理解を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	文革後の中国外交（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第3回	文革後の中国外交（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第4回	文革後の中国外交（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第5回	文革後の中国外交（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第6回	フィールドワーク	アジア経済研究所図書館を訪問する
第7回	文革後の中国外交（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第8回	現代の中国外交（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第9回	修士論文執筆者による途中経過報告会	修士論文執筆者による途中経過報告とディスカッション
第10回	現代の中国外交（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第11回	現代の中国外交（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第12回	修士論文執筆者による途中経過報告会	修士論文執筆者による途中経過報告とディスカッション
第13回	現代の中国外交（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第14回	現代の中国外交（5）	受講者による文献の読解とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しないが、授業で扱う論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生のディスカッションの時間を多くとる

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治

<研究テーマ>中国、旧ソ連の民族政策

<主要研究業績>

①『新疆ウイグル自治区——中国共産党支配の70年』中央公論新社、2022年。

②『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

など

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

国際行政研究 1

坂根 徹

備考（履修条件等）：国際政治学「国際公共政策研究 1」と合同
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共政策研究 1 では、「グローバル・リージョナルな国際公共政策：Global and Regional International Public Policy」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策（国際行政研究 1 では、以下と上記の国際公共政策の記事を国際行政に読み替えて頂きたい）について、グローバル・リージョナルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、国際公共政策に関して全般的な検討を行い、これを歴史的視点からみていく。その後、国際公共政策の推進主体としてよく取り上げられる国連システム・EUと、推進する上で必要となる資金・人材という代表的な資源について検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表し、あわせて発表後に検討・議論等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国際公共政策	グローバル・リージョナルな国際公共政策の概要についての検討
3	調査研究テーマの選定に向けた検討	各受講生による本科目のテーマに関係する関心を踏まえた調査研究テーマの選定に向けた検討
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	国際公共政策の歴史	国際公共政策の史的展開についての検討
7	国際公共政策の推進主体 1	国連システムについての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	国際公共政策の推進主体 2	EUについての検討
10	国際公共政策の必要資源 1	国際公共政策の資金についての検討
11	国際公共政策の必要資源 2	国際公共政策の人材についての検討

12	調査研究テーマの最終発表 1	各自の調査研究テーマに関する最終発表の開始
13	調査研究テーマの最終発表 2	各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続
14	調査研究テーマの議論と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表に向けての事前準備にまとまった時間を充当して行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020年。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学習状況・最終発表よりも前の発表・授業での積極的貢献・参加度（平常点）を50%、最終発表・議論を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

以下の【その他の重要事項】を参照されたい。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等
<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等
<研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>
・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第20号、国際書院、2019年に所収）
・「国連PKOの財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連—多元的視点からの再考』国連研究第13号、国際書院、2012年に所収）
・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline (in English)】

Main theme of this course (International Public Policy 1) is to learn and consider about global and regional international public administration. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies. In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations. Grading will be decided based on presentations and discussion (50%), and in-class contribution (50%).

POL700A3（政治学 / Politics 700）

博士論文演習ⅡA

河野 有理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、博士課程に在籍の学生に対し、博士論文執筆に向けて指導を行うものである。

【到達目標】

各自の博士論文執筆に向けた個別の指導を行い、論文完成へと導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、学生から研究の進捗状況聞き、研究上必要な文献の指摘や、論点についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文指導1	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	論文指導2	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	論文指導3	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	論文指導4	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	論文指導5	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	論文指導6	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	論文指導7	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	論文指導8	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	論文指導9	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	論文指導10	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	論文指導11	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	論文指導12	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	論文指導13	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	論文指導14	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義前に、各自が必要な時間を用いて、その都度の研究状況についてメモにまとめ、質問点を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

その都度、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆に向けた進捗度により評価する。平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞政治学

＜研究テーマ＞日本政治思想史

＜主要研究業績＞

『明六雑誌の政治思想』『田口卯吉の夢』

【Outline (in English)】

This class aims to help students in the doctoral course to write their theses,

POL700A3（政治学 / Politics 700）

博士論文演習ⅡB

河野 有理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、博士課程に在籍の学生に対し、博士論文執筆に向けて指導を行うものである。

【到達目標】

各自の博士論文執筆に向けた個別の指導を行い、論文完成へと導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、学生から研究の進捗状況を聞き、研究上必要な文献の指摘や、論点についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文指導1	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	論文指導2	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	論文指導3	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	論文指導4	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	論文指導5	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	論文指導6	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	論文指導7	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	論文指導8	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	論文指導9	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	論文指導10	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	論文指導11	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	論文指導12	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	論文指導13	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	論文指導14	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義前に、各自が必要な時間を用いて、その都度の研究状況についてメモにまとめ、質問点を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

その都度、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆に向けた進捗度により評価する。平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

論文執筆に向けた進捗度により評価する。平常点100点。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学

<研究テーマ>政治思想史

<主要研究業績>

『明六雑誌の政治思想』『田口卯吉の夢』

【Outline (in English)】

毎回、学生から研究の進捗状況を聞き、研究上必要な文献の指摘や、論点についての解説を行う。

POL700A3（政治学 / Politics 700）

博士論文演習ⅢA

杉田 敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、博士課程に在籍の学生に対し、博士論文執筆に向けて指導を行うものである。

【到達目標】

各自の博士論文執筆に向けた個別の指導を行い、論文完成へと導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、学生から研究の進捗状況を聞き、研究上必要な文献の指摘や、論点についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文指導1	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	論文指導2	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	論文指導3	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	論文指導4	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	論文指導5	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	論文指導6	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	論文指導7	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	論文指導8	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	論文指導9	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	論文指導10	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	論文指導11	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	論文指導12	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	論文指導13	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	論文指導14	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義前に、各自が必要な時間を用いて、その都度の研究状況についてメモにまとめ、質問点を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

その都度、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆に向けた進捗度により評価する。平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞政治学

＜研究テーマ＞政治理論

＜主要研究業績＞

『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）、『自由とセキュリティ』（集英社新書）

【Outline (in English)】

This class aims to help students in the doctoral course to write their theses.

POL700A3（政治学 / Politics 700）

博士論文演習ⅢB

杉田 敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、博士課程に在籍の学生に対し、博士論文執筆に向けて指導を行うものである。

【到達目標】

各自の博士論文執筆に向けた個別の指導を行い、論文完成へと導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、学生から研究の進捗状況聞き、研究上必要な文献の指摘や、論点についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文指導1	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	論文指導2	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	論文指導3	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	論文指導4	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	論文指導5	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	論文指導6	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	論文指導7	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	論文指導8	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	論文指導9	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	論文指導10	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	論文指導11	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	論文指導12	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	論文指導13	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	論文指導14	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義前に、各自が必要な時間を用いて、その都度の研究状況についてメモにまとめ、質問点を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

その都度、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆に向けた進捗度により評価する。平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学

<研究テーマ>政治理論

<主要研究業績>『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）、『自由とセキュリティ』（集英社新書）

【Outline (in English)】

This is a tutorial for students in the doctoral course.

POL700A3 (政治学 / Politics 700)

博士論文演習ⅢA

犬塚 元

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

ニーズやスケジュールをふまえた授業展開とします。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞政治思想史

＜研究テーマ＞政治思想史

＜主要研究業績＞ウェブサイト参考

【Outline (in English)】

This course helps students acquire important skills to complete a PhD dissertation.

POL700A3（政治学 / Politics 700）

博士論文演習ⅢB

犬塚 元

その他属性：

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治思想史

<研究テーマ>政治思想史

<主要研究業績>ウェブサイト参照

【Outline (in English)】

This course helps students improve academic skills.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

ニーズとスケジュールをふまえた授業展開とします。

POL600A41000

国際政治理論

大野 知之

備考（履修条件等）：学部「国際政治学入門」、政治学「国際政治の基礎理論1」、公共政策学・サステナビリティ学「国際政治学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学とは何か、その概要を解説するのが本講義の目的です。ロシアのウクライナ軍事侵攻や中国の台頭などによって第二次世界大戦後の国際秩序が大きく動揺していると言われます。今こそ国際関係を冷静に見る目が必要な時代はありません。入門論としての本講義では、国際政治を理解する上での基本的諸概念を学びます。

【到達目標】

本講義では、以下を到達目標とします。

1. 国際政治学の基本的概念を理解することによって、国際情勢を客観的に把握できるようにする。
2. 他人の意見の受け売りではなく、自分の知力で国際政治について意見を主張できるようにする。
3. 偏見、思い込み、固定観念を打破し、公平かつ価値中立的な国際政治に対する見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本として、講義形式で行います。この科目は3つのパートで構成されています。まず前半部は国際政治学の基本的な概念や基礎理論について学びます。その後、中間部では国際政治学の代表的なテーマについて前半部で学んだことを踏まえながら考えます。そして、後半部では、昨今の国際情勢についてこれまでの議論を踏まえながら考えます。また授業では、定期的によりアクションペーパーを提出してもらうほか、授業期間中に1回小テストを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～国際政治学入門の入門	国際政治学（国際関係論）とは何か、学問分野の基本的概念を解説します。
2	アナーキーとは何か？	国際政治の最も基本的な概念の一つであるアナーキーについて考えます。
3	リアリズム	国際政治学の主要理論のうち、リアリズムと呼ばれる理論について扱います。
4	リベラリズム	リベラリズムと呼ばれる国際政治理論について、経済的相互依存、国際制度、民主主義の3つの柱という観点から考えます。
5	国際政治における価値の役割	国際社会における規範の形成を中心に国際政治における価値の役割を考えます。
6	対外政策決定過程	外交政策はどのように決定されるのか？ 政策決定の理論のうち、アリソンモデルとパットナムの2層ゲームモデルを中心に考えます。

7	安全保障	安全保障について、同盟と抑止の2つの概念を取り上げて議論します。
8	国際政治経済	国際経済の政治的側面について、前半部で扱ったリアリズムとリベラリズムの視点から考えます。
9	国際機構の役割	国際連合を中心に国際機構の機能と役割について考えます。
10	戦後日本外交の展開	現在の日本外交について議論する際に欠かせない、戦後日本外交の歴史的展開について概観します。
11	冷戦後の東アジア国際関係	冷戦後の東アジアの国際政治について、朝鮮半島情勢と中国の台頭の2つを中心に検討します。
12	国境を超えた人の移動を取り巻く問題	難民や移民などの人の移動をめぐる問題が各国の内政と対外政策にどのような影響を与えているのか考察します。
13	理論からみた現代の国際紛争	合理的選択論など近年、日本でも取り上げられるようになってきた理論を中心にウクライナや中東での戦争について検討します。
14	学習のまとめ	半期の学習を振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに1時間、講義終了後に内容を復習するのに2時間、合計3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で毎回必ず使用する教科書は指定しません。

【参考書】

講義全体の参考書として、いくつか掲示します。さらに詳細な文献リストは講義内で紹介します。

○国際政治学の入門書・教科書

・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣 2023年）

・佐渡友哲、信夫隆司、柑本英雄著『国際関係論（第3版）』（弘文堂 2018年）

・草野大希、小川裕子、藤田泰昌『国際関係論入門』（ミネルヴァ書房 2023年）

・宮岡勲『入門講義 安全保障論（第2版）』（慶應義塾大学出版会 2023年）

○国際政治史・外交史

国際政治学を履修する際は、高校の世界史や大学の国際政治史、外交史の知識が役立ちます。参考文献としては、下記のものを挙げておきます。

・小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ』（有斐閣 2018年）

・添谷芳秀『入門講義 戦後日本外交史』（慶應義塾大学出版会 2023年）

・森聡、福田円編『入門講義 戦後国際政治史』（慶應義塾大学出版会 2022年）

【成績評価の方法と基準】

授業中に1回小テストを行います。（30%）

また最後に学期末試験を行います。（70%）

この両者を合計した100点満点で成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to explain an outline of international politics /international relations. The impact of Russian aggression against Ukrain and the rise of china is very heavily, but we must study the basic concepts of international affairs based upon academic discipline now.

POL600A41011

アジア国際政治史

福田 円

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、東アジア諸国・地域の現代史について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、受講者が東アジア近現代史について既に基本的な知識を持っているという前提のもと、特定の時期、諸国・地域について研究した文献を精読する。そして、精読した文献が東アジア近現代史を理解する上で、どのような意味を持つのかについて議論を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

戦後東アジア国際政治史について、まず教員が講義を行う。その後、そのなかで特定の国の現代史について論じた文献や論文を精読し、議論を行う。最後に、東アジア国際政治史から見た際に、自分の修士論文／リサーチペーパーがいかなる位置を占めるのかについて、各自がプレゼンテーションを行い、履修者全員で討論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と文献の紹介
第2回	戦後東アジア国際政治史（1）	冷戦期の東アジア
第3回	戦後東アジア国際政治史（2）	デタント期の東アジア
第4回	戦後東アジア国際政治史（3）	新冷戦期の東アジア
第5回	戦後東アジア国際政治史（4）	ポスト冷戦期の東アジア
第6回	戦後東アジア国際政治史（5）	米中競争期の東アジア
第7回	戦後東アジア国際政治史（6）	グローバルな国際政治と東アジア国際政治史
第8回	文献精読（1）	各章担当者の報告と議論
第9回	文献精読（2）	各章担当者の報告と議論
第10回	文献精読（3）	各章担当者の報告と議論
第11回	文献精読（4）	各章担当者の報告と議論
第12回	文献精読（5）	各章担当者の報告と議論
第13回	文献精読（6）	各章担当者の報告と議論
第14回	まとめの議論	精読した文献の論点をまとめ、発展させるための議論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の部分では、事前に指定する精読文献の該当部分および配布資料を読んでから、次の授業に臨む必要がある。また、輪読に際しては担当部分の報告資料を準備し、担当ではない箇所についても事前に読んでおいて、質問や論点を積極的に発表して欲しい。学期末にはレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】

森聡・福田円編『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年

家近亮子『東アジア現代史』ちくま新書、2025年

履修者の顔ぶれを見て、精読する文献や論文を決定する。英語や中国語の文献を扱うこともある。

【参考書】

家近亮子『現代東アジアの政治と社会（新訂）』NHK出版、2020年

田中明彦・川島真編『20世紀の東アジア史』全3巻、東京大学出版会、2020年

岩崎育夫『アジア近現代史-「世界史の誕生」以後の800年』中央公論新社、2019年

福田円『中国外交と台湾-「一つの中国」原則の起源』慶應義塾大学出版会、2013年

和田春樹ほか編『東アジア近現代通史』第7巻～第10巻、岩波書店、2011年

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007年

【成績評価の方法と基準】

授業における報告とディスカッションへの貢献度（50%）、および期末プレゼンテーションとレポート（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への変更も想定されるので、オンライン講義や課題にアクセスできる環境を準備しておくこと。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは火曜3限なので、この時間に個別の相談などを必要とする学生は、事前にメールにて連絡をすること。

【担当教員の専門分野等】

東アジア国際関係、現代中国・台湾論

【Outline (in English)】

This course aims to introduce and analyze the history of international relations in East Asia since 1945.

POL600A41005

国際公共政策研究 1

坂根 徹

備考（履修条件等）：政治学「国際行政研究 1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共政策研究 1 では、「グローバル・リージョナルな国際公共政策：Global and Regional International Public Policy」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策（国際行政研究 1 では、以下と上記の国際公共政策の記載を国際行政に読み替えて頂きたい）について、グローバル・リージョナルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、国際公共政策に関して全般的な検討を行い、これを歴史的視点からみていく。その後、国際公共政策の推進主体としてよく取り上げられる国連システム・EUと、推進する上で必要となる資金・人材という代表的な資源について検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表し、あわせて発表後に検討・議論等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国際公共政策	グローバル・リージョナルな国際公共政策の概要についての検討
3	調査研究テーマの選定に向けた検討	各受講生による本科目のテーマに関係する関心を踏まえた調査研究テーマの選定に向けた検討
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	国際公共政策の歴史	国際公共政策の史的展開についての検討
7	国際公共政策の推進主体 1	国連システムについての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	国際公共政策の推進主体 2	EUについての検討
10	国際公共政策の必要資源 1	国際公共政策の資金についての検討
11	国際公共政策の必要資源 2	国際公共政策の人材についての検討

12	調査研究テーマの最終発表 1	各自の調査研究テーマに関する最終発表の開始
13	調査研究テーマの最終発表 2	各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続
14	調査研究テーマの議論と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表に向けての事前準備にまとまった時間を充当して行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020年。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学習状況・最終発表よりも前の発表・授業での積極的貢献・参加度（平常点）を50%、最終発表・議論を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

以下の【その他の重要事項】を参照されたい。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等

<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等

<研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>

・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第20号、国際書院、2019年に所収）

・「国連PKOの財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連—多元的視点からの再考』国連研究第13号、国際書院、2012年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline (in English)】

Main theme of this course (International Public Policy 1) is to learn and consider about global and regional international public administration. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations.

Grading will be decided based on presentations and discussion (50%), and in-class contribution (50%).

POL600A41007

国際協力政策研究

武貞 稔彦

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「国際協力論」、政治学「国際開発政策研究1」、と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】

一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1)現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2)国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3)誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

報告対象とする文献については、2025年度秋学期開始前に学習支援システムを通じて通知／配布予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	オリエンテーション 国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景—途上国の貧困と先進国との格差—について概観する。
第3,4回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後1970年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第5,6回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980年代、90年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第7,8回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第9,10回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。

第11,12回 「開発」とは何か：開発と文化、社会科学

現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。

第13,14回 民間企業と国際協力

国際協力の主要なアクターの一つとなっている民間企業の活動について概観し、その将来像について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 —途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末レポート(50%)、各回の担当報告の内容(30%)、授業やディスカッションへの貢献(20%)を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.

[Learning Objectives]

Completing the course, students are expected;

- 1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
- 2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and

3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.

[Learning Activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

POL600A41012

非伝統的安全保障研究

本多 美樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現在の国際社会を理解するうえで不可欠な「非伝統的安全保障研究」の最前線について学ぶ。非伝統的安全保障研究とは、多くは非軍事的ではあるが、国家や人にとって「安全を脅かす」とみなされる事象について、事象の性質を見極めたうえで、どのような視点から分析できるかを考察する研究分野である。主権国家を単位とする近代の国際社会において、安全保障はもっとも重要視される価値のひとつであるが、その概念はもともと状況依存的事象であることから、国際秩序の状況に応じて対象となる問題領域は変化してきた。とくに冷戦後は、経済危機、環境、難民・避難民、感染症などが安全保障上の重要な問題として顕在化したことによって安全保障をめぐる概念は多義化し、民主主義、人権、責任などの価値の広がりや背景に大きく変容してきた。授業では、変容してきた安全保障概念について整理した後、「誰が誰をどのような脅威からどう守るのか」という点に注目して、非軍事的で越境的な脅威とそれらに取り組み国際社会がどのように研究されてきたのかを考察する。

【到達目標】

- ・変容する安全保障概念について理解する。
- ・非伝統的安全保障問題の分析方法について学ぶ。
- ・非伝統的安全保障を扱った研究論文を通じて、現在の安全保障研究の最前線を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

担当教員が理論の整理などを行ったあと、受講生がそれぞれ関心のある非伝統的安全保障問題を選択し、報告を行い、議論を持つ。事前の文献購読（英書）を必須とする。報告の回数は受講者の人数による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と講読文献についての説明、安全保障概念の変遷①
第2回	安全保障概念の変遷	安全保障概念の変遷②
第3回	非伝統的安全保障とは何か	非伝統的安全保障研究の系譜
第4回	非伝統的安全保障問題へのアプローチⅠ	理論と方法①
第5回	非伝統的安全保障問題へのアプローチⅡ	理論と方法②
第6回	民族紛争と安全保障	理論と事例
第7回	貧困と経済の安全保障	理論と事例
第8回	環境と安全保障	理論と事例
第9回	食糧と安全保障	理論と事例
第10回	エネルギーと安全保障	理論と事例
第11回	人の移動と安全保障	理論と事例
第12回	グローバル・ヘルスと安全保障	理論と事例
第13回	組織犯罪と安全保障	理論と事例
第14回	まとめ	これまでの授業と報告の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定された文献を必ず購読してから授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を要する。

【テキスト（教科書）】

Mely Caballero-Anthony, Negotiating Governance on Non-Traditional Security in Southeast Asia and Beyond (Columbia Univ Press, 2018)

【参考書】

- ・Barry Buzan, Ole Wæver, and Jaap De Wilde, Security: A New Framework for Analysis (Lynne Rienner Publishers, 1997)
 - ・Mely Caballero-Anthony, An Introduction to Non-Traditional Security Studies: A Transnational Approach (SAGE Publications, 2016)
 - ・山田満・本多美樹編著『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）
 - ・篠田英朗『国際社会の秩序』（東京大学出版、2007年）
- その他、授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表報告（40%）、議論への参加（10%）と期末レポート（50%）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連科目として、「地球規模課題政策研究」を秋学期に開講する。「地球規模課題政策研究」は、国家や国際機構、市民社会などのさまざまなアクターがグローバル・イシューを解決するために取り組んでいる政策と実践について国際機構論の視点から考察する科目である。また、秋学期に開講する「総合講座・外交総合講座」を併せて受講することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な近著として、「経済制裁は平和のために有効か」石田淳ほか編著『国際平和論—脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）121-141頁；"Japan: COVID-19 and the Vulnerable," M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds.), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022) pp.136-156；『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）；Miki Honda, "Smart Sanctions' by the UN and financial sanctions," Sachiko Yoshimura ed., United Nations Financial Sanctions(Routledge, 2021)pp. 18-33；「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」』（明石書店、2016年）などがある。

【Outline (in English)】

Who secures safety of whom from what kinds of threats and how? – Concept of security has changed with the times. The objective of this course is to know the changes in security concepts from the historical perspective and to learn "securitization theory." With the end of the Cold War era, the international community met the decrease in interstate conflicts but the increase in intrastate conflicts originated from religious/ethnic frictions. And states have faced newly-emerged threats, so-called non-military issues or "non-traditional" security issues which include infectious diseases, environment degradation, and displaced persons. States recognize those non-traditional issues as "threats" to their national safety, and politicize them, and then securitize them by formulating national policies. This course analyzes non-traditional issues by using securitization theory to know usefulness and limitations of the theory.

POL600A40100

Academic Reading (初級)

Alan MEADOWS

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This lower-level graduate course aims to help students acquire the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】

Although the main focus will be on reading, the course will enable students to develop all four language skills: speaking, listening, writing and reading.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of sources, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals will be studied. The aim throughout will be to boost academic reading and critical thinking skills, together with the acquisition, and active use of, the academic vocabulary necessary to function at this level of study. Interaction with classmates in pair, small group and whole class activities will offer ample opportunity to exchange information and opinions. Students will also undertake reading exercises leading to a variety of oral and written assignments to be submitted throughout the course.

It is your responsibility to check for updates and announcements both (i) on the course page within Hoppii, and (ii) in emails sent to your registered email address.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation and Introductions	Overview of course.
2	How to be an Active Reader	Advice on practical reading skills. Introduction to the Academic Word List.
3	Reading Theme I: Learning Styles	Reading based on analysis of different learning styles.
4	Reading Theme II: College Life	Readings based on overseas student life at universities in the English speaking world.
5	Reading Theme II: College Life (continued)	Readings based on overseas student life at universities in the English speaking world
6	Reading Theme III: Political Science	Readings on issues related to Political Science
7	Reading Theme IV: Environmental Science	Readings on issues related to Environmental Science.
8	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
9	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
10	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
11	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
12	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
13	Make-up Class (if necessary)	Reading on a topical global political issue.
14	Make-up class (if necessary)	Reading on a topical global political issue

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course.

【参考書】

Materials will be provided by the instructor or accessible via the internet or through the university library /bookshop.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on a combination of attendance, attitude, in-class quizzes and the quality of the submitted work, both oral and written.

Further details relating to the grading criteria will be provided during the first lesson.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】

The length and level of difficulty of the selected reading materials will increase as the course proceeds. Students will be expected to have thoroughly read specific reading materials before each lesson, and will be encouraged to engage in an active analysis and evaluation of those materials during class time.

Grades will be based on a combination of attendance, attitude, in-class quizzes and the quality of the submitted work, both oral and written. Further details relating to the grading criteria will be provided during the first lesson.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A40101

Academic Reading (上級)

ZAHIR HASAN

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This higher-level graduate course aims to help students improve the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】

The main focus is to improve student's reading comprehension, critical thinking skills regarding the content and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course will attempt to utilize and improve all four language skills to increase comprehension and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material. The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of media, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals and web-based material will be utilized and studied with the aim of boosting academic reading and critical thinking skills, along with vocabulary acquisition. Interaction with classmates in pair work, small group and whole class activities will offer ample opportunities to exchange information and opinions in an interactive manner. Reading circles will be used for discussions based on reading material with group member having various responsibilities to perform.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第2回	Reading Preparation Discussions	Reading practice
第3回	Reading Assignment Discussions	Reading Practice
第4回	Reading Tasks Discussions	Reading exercises
第5回	Reading abstracts Discussions	Reading exercises
第6回	Reading tasks Discussions	Reading tools
第7回	Reading tools Discussions	Reading exercises
第8回	Reading articles Discussions	Reading tasks
第9回	Reading tools Discussions	Reading exercises
第10回	Global Politics Reading Theme II	Action Plans and global and local problems
第11回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第12回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第13回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第14回	Global Politics Reading Theme II Final Presentations Final Essay exam	Action Plans and global and local problems Final exam and course feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Longman Academic Reading Series 5
Reading Skills for College
Lorraine C. Smith
Pearson
ISBN 9780132760676

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

30%Advanced academic reading and negotiation.20%Action Plans on global and local problems 30%Active class participation and homework.20%Final Reading Exam

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on reading with critical thinking. Students will also read research papers and summarize them.

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

n/a

【担当教員の専門分野等】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This level of reading is advanced and is meant to make the student read and understand complex texts. Different reading material will be provided and skills taught.

POL600A40102

Thesis Writing (初級)

Alan MEADOWS

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is the lower-level Thesis Writing course.

【到達目標】

The course aims to give students the necessary tools to be able to write in a precise and logical manner in English. They will be challenged to construct ideas and arguments in a logical manner, and to employ critical thinking skills when considering a range of contemporary global political issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

This lower-level graduate course will enable students to become familiar with the fundamentals of the writing process: from brainstorming and note-making, through the organisational stages to the final editing and proofreading of a completed piece of work. During the course, students will be expected to hone their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Regular 'language clinics' will help to minimize common organizational, grammatical and stylistic errors. Most of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, peer group evaluation and a variety of other activities. It is your responsibility to check for updates and announcements both (i) on the course page within Hoppii, and (ii) in emails sent to your registered email address.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	The Writing Process I	Narrowing down a topic and writing an outline.
3	The Writing Process II	Writing the introduction. Working on the thesis statement.
4	The Writing Process III	Writing the conclusion
5	Paragraph Structure I	Unity within a paragraph.
6	Paragraph Structure II	Unity between paragraphs.
7	Supports I	Illustrative examples.
8	Supports II	Paraphrasing.
9	Supports III	Summarising.
10	Supports IV	Quotations.
11	Supports V	Facts and statistics. In-text citations and the bibliography.
12	Academic Style I	Formality
13	Academic Style II	Hedging and tentative language
14	Academic Style III	Synonyms and modal verbs.
	Course Wrap up	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course.

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

60%Classwork, in-class quizzes and homework assignments
40%Report

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【その他の重要事項】

This syllabus is flexible and subject to change in line with the ability level and particular needs of the students, as assessed by the instructor.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】

The course aims to help students acquire the fundamental skills needed to write an academic thesis in English.

Grading criteria:

60%Classwork, in-class quizzes and homework assignments

40%Report

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A40103

Thesis Writing (上級)

ZAHIR HASAN

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This higher-level graduate course will guide students from the fundamentals of the writing process; pre-writing including brainstorming and note-making, paragraph structure, and concepts of unity and coherence to more complex written structures; paraphrasing and summarizing and argumentation.

【到達目標】

The goal of this course is to help students expand and formalize the skills needed to write an academic thesis in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

During the course, students will be expected to develop their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Grammatical mini-clinics will attempt to minimize common stylistic, grammatical and organizational errors. Much of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, self and peer group evaluation and a variety of other activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Orientation	Overview of the course and self-introductions
第2回	Pre-writing	Topic generation and brainstorming
第3回	Writing the Introduction	The Thesis Statement
第4回	Paragraph Structure	Review of the three parts of a paragraph
第5回	Unity and Coherence	How to unify the content within a paragraph
第6回	Supporting Details	How to find and explain facts quotations and statistics
第7回	Facts vs. Opinions	How to decide what is fact and what is opinion
第8回	Paraphrasing and Quotations	The differences between paraphrasing and quoting
第9回	Summarizing	How to state the main idea in your own words
第10回	Argumentation	Investigating collecting generating and evaluating evidence
第11回	Types of sentences	Writing dependent and independent clauses
第12回	Parallel Structures	Showing how two or more ideas have the same level of importance
第13回	Opposition Clauses	Focusing on adverb clauses showing unexpected results
第14回	Participial Phrases Course Review and Evaluation	How to make your sentences more powerful and richer Summary of ideas covered and individual conferences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Longman Academic Writing Series Level 5 - Essays to Research Papers
Alan Meyers
Pearson
ISBN 9780132912747

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on a combination of attendance, in-class participation, and the quality of in-class and submitted written work. Further details relating to the grading criteria will be announced during the first class.

The final Thesis product will comprised 50%of the final grade

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on writing various kinds of essays, research papers and proper citation training. Students will summarise and write abstracts of research papers.

【学生が準備すべき機器他】
n/a

【その他の重要事項】
n/a

【担当教員の専門分野等】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】

This higher-level graduate course will guide students from the fundamentals of the writing process; pre-writing including brainstorming and note-making, paragraph structure, and concepts of unity and coherence to more complex written structures; paraphrasing and summarizing and argumentation.

POL600A40104

Presentation & Debate (初級)

Alan MEADOWS

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is the lower-level Presentation and Debate course. The course will present students with a range of topical global issues that lend themselves to discussion, debate and formal presentations. It is designed to give students the ability to identify, analyze, explain, summarize and evaluate the key arguments that underpin a variety of global political issues. Practical advice will be given advice on how to give academic presentations. Students will learn the mechanics of debate and how to hone their analytical and delivery skills so as to more effectively defend their case within an academically challenging environment.

【到達目標】

This course aims to develop students' presentation and debating skills so that they are able to exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making abilities. The focus will be on building, presenting and evaluating arguments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

A variety of topical issues related to global politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. Students will be offered guidance in their research and information gathering activities, instruction in using appropriate language and delivery techniques, and help in developing their critical listening and evaluation skills.

By the end of the course students will have an improved understanding of the procedures and constrictions of making academic presentations and should be able to conduct debates with increased confidence and effectiveness.

It is your responsibility to check for updates and announcements both (i) on the course page within Hoppii, and (ii) in emails sent to your registered email address.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	Key Presentation and Debate Skills	Voice control, body language, content. Organizing, explaining and supporting opinions. Challenging supports and organizing your refutation.
3	News briefs (1)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.

4	News briefs (2)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.
5	Case Study	Examination of the arguments relating to a debate topic to be decided in consultation with the students.
6	Case Study	Continuation of the previous lesson.
7	In-class Debate	Debate.
8	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
9	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
10	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
11	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
12	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
13	Presentation and/or Debate	Continuation of previous lessons.
14	Course wrap up	Reflection of progress made during the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this class.

【参考書】

All necessary materials will be provided by the instructor. More information will be given during the course orientation.

【成績評価の方法と基準】

A total of two graded presentations and two graded debates each worth a maximum of 20%=80%.

Class participation 20%.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Note: This syllabus is flexible and subject to change. The amount of time needed for the class to complete assignments and each round of presentations and debates is difficult to predict. Stay alert in class for precise dates for assignments.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】

The emphasis throughout the will be on the active engagement by students in all aspects of the course. To this end, thorough preparation and a willingness to participate actively at all stages of any given debate and/or presentation will be expected. The final grade will be based upon:

i. A total of two graded presentations and two graded debates each worth a maximum of 20%=80%.

ii. Class participation 20%.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A40105

Presentation & Debate (上級)

ZAHIR HASAN

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This higher-level graduate course aims to help students practice fluency, formulate and exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making skills through the study of debate and presentation.

【到達目標】

For students to develop critical thinking skills regarding the global political environment. Cooperative learning will be a main focus with students learning about various content areas from each other. Teamwork, autonomy, and research skills will be developed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

A variety of topical issues related to Global Politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. In the early stages of the course, students will prepare for the debate process through topic identification, research into that topic, both for and against a position, write either affirmative or negative case positions and anticipate problems with their positions and then present their position in formal class debates and presentations. Following the debates, specific proposals will be written, discarding some of the weaker aspects of their position and incorporating some of the stronger aspects of the opposition. Finally, formalized debates will take place with a goal of seeking a solution agreeable to the interests of both parties.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第2回	Presentation 1	Three greatest accomplishments
第3回	Presentation 1 (cont.)	Three greatest accomplishments
第4回	Presentation 2 preparation	Future Nobel Peace Prize winners
第5回	Presentation 2	Future Nobel Peace Prize winners
第6回	Presentation 2 (cont.)	Future Nobel Peace Prize winners
第7回	Persuasive Presentations	Persuasive presentations introduction
第8回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations
第9回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations
第10回	Problem solving presentations	Problem solving presentations

第11回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第12回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第13回	Final Presentation Preparation	Final Presentation Preparation
第14回	Final Presentations	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course.

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

20%First In-Class debate and presentation.
20%Second In-Class debate and presentation.
20%Third In-Class debate and presentation.
20%Fourth In-Class debate and presentation.
20%Active class participation and homework.

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare various types of debates and presentations on various topics and learn from each other. The syllabus is flexible and subject to change. The choice of topics to be studied may change in line with the particular interests of the students. Please be aware of such changes along with date for homework assignments and in-class activities and quizzes.

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

n/a

【担当教員の専門分野等】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This higher-level graduate course aims to help students practice fluency, formulate and exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making skills through the study of debate and presentation.

POL600A42202

国際公共調達研究 1

坂根 徹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共調達政策1では、「日本の国際公共調達政策International Public Procurement Policy of Japan」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共調達政策について、特に日本の公共調達における国際的側面に焦点を当てて理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論することができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、日本の行政や日本の公共調達の課題について事例と対策を検討し、その公共調達について、ODAにおける公共調達やWTO政府調達協定などの国際的な側面を検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表し検討・議論等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	調査研究テーマの選定に向けた検討	各受講生による本科目のテーマに関係する関心を踏まえた調査研究テーマの選定に向けた検討
3	日本の行政	日本の公共調達を論じる前提として日本の行政の検討
4	調査研究テーマの選定と中間発表に向けた検討	各自の調査研究テーマの選定と中間発表に向けた検討
5	日本の公共調達における課題	日本の公共調達における問題事例やその背景についての検討
6	日本の公共調達における課題への対策1	日本の公共調達における課題への組織的側面の対策
7	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
8	日本の公共調達における課題への対策2	日本の公共調達における課題への実施手法の側面の対策
9	日本のODAにおける公共調達	日本のODAにおける公共調達についての検討
10	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
11	WTO政府調達協定と日本	WTO政府調達協定と日本における適用
12	調査研究テーマの最終発表1	各自の調査研究テーマに関する最終発表の開始
13	調査研究テーマの最終発表2	各自の調査研究テーマに関して最終発表の継続

14 調査研究テーマの議論と全体のまとめ 各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表に向けての事前準備にまとめた時間を充当して行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学習状況・最終発表よりも前の発表・授業での積極的貢献・参加度（平常点）を50%、最終発表・議論を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

以下の【その他の重要事項】を参照されたい。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等

<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等

<研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>

・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第20号、国際書院、2019年に所収）

・「国連PKOの財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連—多元的視点からの再考』国連研究第13号、国際書院、2012年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline (in English)】

Main theme of this seminar (International Public Procurement Policy 1) is to learn and consider about international public procurement policy of Japan. By taking this seminar, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various public procurement policies.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations.

Grading will be decided based on presentations and discussion (50%), and in-class contribution (50%).

POL600A42222

地球規模課題政策研究

本多 美樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、国際機構論の視点から、国際機構、地域的機構、企業、市民社会などの重要な行為主体（アクター）が、国際社会の秩序を回復・維持するためにどのような工夫を凝らして機能してきたのか、あるいは機能してこなかったのかについて考察する。授業では安全保障をめぐる問題、開発問題、貧困問題、環境問題、感染症問題などの地球規模の問題（グローバル・イシューあるいはトランスナショナル・イシュー）を取り上げ、それらを解決するための各アクターの役割と機能、政策、課題について考察する。その際に、各アクター間の協働と確執について注目し、各問題領域で形成されつつある「ガバナンス」の現状と今後の課題を展望する。

【到達目標】

・時代とともに変容してきた国際機構、企業、市民社会の役割・機能についての知識を身に付ける。
・地球規模の問題を解決するために、協働と確執を繰り返しながら取り組むさまざまなアクターの政策と活動について理解する。
・国際社会が直面する地球規模の問題に対して自分の問題意識を明確にし、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、受講者間で議論する時間を毎回設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と進め方
第2回	国際社会の平和と安全への協働①	国連とその他の国際機構の協力
第3回	国際社会の平和と安全への協働②	国際機構と企業、市民社会の協力
第4回	国連による集団安全保障①	軍事的措置と非軍事的措置
第5回	国連による集団安全保障②	平和構築
第6回	核不拡散	政策と実践
第7回	軍備管理と軍縮	政策と実践
第8回	人権と民主主義	人権の国際的保障をめぐる政策と実践
第9回	人の移動	難民・避難民、就労移民をめぐる政策と実践
第10回	感染症	政策と実践
第11回	開発協力①	政策と実践
第12回	開発協力②	政策と実践
第13回	環境保護	政策と実践
第14回	資源の管理	政策と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

詳しくは授業内で提示する。

【参考書】

・石田淳ほか編著『国際平和論：脅威の認識と対応の模索』有斐閣、2024年。
・山田哲也『国際機構論入門』（第2版）東京大学出版会、2023年。

・渡部茂己・望月康恵編著『国際機構論 総合編』国際書院、2015年。
・吉村祥子・望月康恵編著『国際機構論 活動編』国際書院、2021年。
その他、各回の関連文献・資料については、授業の際に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での議論への参加（30％）と期末レポート（70％）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期に開講する「非伝統的安全保障研究」を受講することが望ましい。「非伝統的安全保障研究」は、伝統的安全保障との考え方の違いや分析アプローチの違いに重きを置いた内容であり、「人間の安全保障」や「保護する責任」など国際規範についてもより深く考察する。また、秋学期に開講する「総合講座・外交総合講座」を併せて受講することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な近著として、「経済制裁は平和のために有効か」石田淳ほか編著『国際平和論—脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）121-141頁；"Japan: COVID-19 and the Vulnerable," M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds.), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022) pp.136-156；「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）；Miki Honda, “‘Smart Sanctions’ by the UN and financial sanctions,” Sachiko Yoshimura ed., United Nations Financial Sanctions(Routledge, 2021)pp. 18-33；「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）などがある。

【Outline (in English)】

The international community faces diversified transnational issues such as security issues, poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes, financial crisis and so on. No single nation can control them anymore. And those issues cannot be understood within the nation-centered narratives. This course provides students with opportunities to become acquainted with "global issues" and learn that diversified actors have made efforts to tackle with the issues. Students will know that nations make contributions to the settlement of those issues in cooperation with regional and international institutions, businesses, civil society, and other entities. These efforts and social movements by the diversified actors can be called "global governance." Students will understand how the international community tries to formulate and manage "global governance."

POL600A42327

アジア国際関係研究2

福田 円

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アジア諸国の国際関係の全体像を学びながら、各自の修士論文／リサーチペーパーの内容について考え、それを報告し、他の履修者と議論する。

【到達目標】

この授業では、受講者がアジア諸国の歴史と政治制度について既に基本的な知識を持っているという前提のもと、同地域の国際関係について論じた近年の学術書や論文を精読し、議論する。それと同時に、同地域における国際関係に関する未解決の課題を発見して問いを立て、その問いに答えるべく、分析の方法や過程についての計画を立て、その計画について議論をすることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業においては、アジアにおける国際関係の歴史と現状、調査の方法などについてまず教員が講義を行う。その後、アジア（またはインド太平洋）の二国間関係、多国間関係、地域協力などについて論じた文献や論文を精読しながら、議論を行う。同時に履修者は、各自の研究と授業で学んだことの関係について報告することを求められる。英語や中国語の文献を扱うこともあるので、履修者にはそれらの文献を読んで、報告をできる能力が必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要と文献精読の説明
第2回	文献精読の準備（1）	アジア国際関係の歴史と現状
第3回	文献精読の準備（2）	アジア国際関係の歴史と現状
第4回	文献精読の準備（3）	アジア国際関係の歴史と現状をリサーチする
第5回	文献精読（1）	各文献担当者の報告と議論
第6回	文献精読（2）	各文献担当者の報告と議論
第7回	文献精読（3）	各文献担当者の報告と議論
第8回	文献精読（4）	各文献担当者の報告と議論
第9回	文献精読（5）	各文献担当者の報告と議論
第10回	文献精読（6）	各文献担当者の報告と議論
第11回	文献精読（7）	各文献担当者の報告と議論
第12回	文献精読（8）	各文献担当者の報告と議論
第13回	ディスカッション（1）	アジア国際関係の課題
第14回	ディスカッション（2）	アジア国際関係の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の部分では、事前に指定する課題文献を読んでから、次の授業に臨む必要がある。また、文献の精読に際しては担当部分の報告資料を準備し、担当ではない箇所についても事前に読んでおいて、質問や論点を積極的に発表して欲しい。学期末にはレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】

- 1）福田円「中国の台湾政策（一九五八年）—金門・馬祖を『解放せず』という決定と『一つの中国』政策」『法学政治学論究』第68号、2006年3月、167-194頁
- 2）福田円「ポスト民主化台湾と日本—関係の制度化と緊密化」『東洋文化』第94号、2014年、89-120頁
- 3）福田円「中国とカナダの国交正常化交渉—西側諸国との関係改善と「一つの中国」原則の形成」『国際政治』第195号、2019年3月、27-42頁
- 4）Fukuda Madoka, "The characteristics of Xi Jinping's policy-making on Taiwan affairs: the conflict between institutionalization and centralization," Journal of Contemporary East Asia Studies, 11(2), 2023, pp.244-263

授業では、教員がこれまでに発表した上記4本の論文を事例にリサーチの方法を説明する。そのほか、精読する文献や論文、それらを理解するために必要な教材を適宜指定する。

【参考書】

阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、2024年
松沢裕作『歴史学はこう考える』ちくま新書、2024年
多湖淳『国際関係論』勁草書房、2024年
佐藤望編著『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020年
ジョセフ・S・ナイ・ジュニア他『国際紛争-理論と歴史（原書第10版）』有斐閣、2017年

野村康『社会科学の考え方』名古屋大学出版会、2017年
本多勝一『(新版) 日本語の作文技術』朝日文庫、2015年
草野厚『政策過程分析入門（第2版）』東京大学出版会、2012年
斉藤孝・西岡達裕『学術論文の技法（新訂版）』日本エディタースクール出版部、2005年
木下是雄『理科系の作文技術』中公新書、1981年

【成績評価の方法と基準】

授業における報告とディスカッションへの貢献度（50％）、および期末レポート（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への変更も想定されるので、オンライン講義や課題にアクセスできる環境を準備しておくこと。

【その他の重要事項】

オフィスアワーに個別の相談などを必要とする学生は、事前にメールにて連絡をすること。

【担当教員の専門分野等】

東アジア国際政治（史）、現代中国・台湾論

【Outline (in English)】

This course aims to introduce and analyze international relations in Asia.

POL600A42306

対外政策研究（中国）（1）

熊倉 潤

備考（履修条件等）：政治学「日中関係政策論1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の対外政策及び現代中国史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等について、ゼミ形式で議論し、理解を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業を想定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	文革前の対外関係（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第3回	文革前の対外関係（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第4回	文革前の対外関係（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第5回	文革前の対外関係（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第6回	文革前の対外関係（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第7回	文革前の対外関係（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第8回	個人研究発表	院生個人の研究について、各自発表し議論する
第9回	文革中の対外関係（1）	受講者の研究報告とディスカッション
第10回	文革中の対外関係（2）	受講者の研究報告とディスカッション
第11回	文革中の対外関係（3）	受講者の研究報告とディスカッション
第12回	文革中の対外関係（4）	受講者の研究報告とディスカッション
第13回	文革中の対外関係（5）	受講者の研究報告とディスカッション
第14回	フィールドワーク	横浜中華街を訪問して媽祖廟、関帝廟等を実地見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しないが、授業で扱う論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生のディスカッションの時間を多くとる

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞中国、旧ソ連の政治

＜研究テーマ＞中国、旧ソ連の民族政策

＜主要研究業績＞

①『新疆ウイグル自治区——中国共産党支配の70年』中央公論新社、2022年。

②『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

など

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL600A42307

対外政策研究（中国）（2）

熊倉 潤

備考（履修条件等）：政治学「日中関係政策論2」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の対外政策及び現代中国史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等について、ゼミ形式で論じ、理解を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	文革後の中国外交（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第3回	文革後の中国外交（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第4回	文革後の中国外交（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第5回	文革後の中国外交（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第6回	フィールドワーク	アジア経済研究所図書館を訪問する
第7回	文革後の中国外交（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第8回	現代の中国外交（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第9回	修士論文執筆者による途中経過報告会	修士論文執筆者による途中経過報告とディスカッション
第10回	現代の中国外交（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第11回	現代の中国外交（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第12回	修士論文執筆者による途中経過報告会	修士論文執筆者による途中経過報告とディスカッション
第13回	現代の中国外交（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第14回	現代の中国外交（5）	受講者による文献の読解とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しないが、授業で扱う論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生のディスカッションの時間を多くとる

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞中国、旧ソ連の政治

＜研究テーマ＞中国、旧ソ連の民族政策

＜主要研究業績＞

①『新疆ウイグル自治区——中国共産党支配の70年』中央公論新社、2022年。

②『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

など

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL600A42314

国際地域研究（朝鮮半島）（1）

権 鎬淵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域研究課目の一環として、韓国における政治社会の諸問題を検討する。

大統領選挙の仕組みと投票分析、リベラル勢力と保守派の対立、慶尚道と全羅道間の地域対立、兵役制度の仕組みと社会的影響、経済制度の特徴、北に対する認識と政策、反共教育、歴史認識、市民運動などを取り上げ、その実態を分析するとともに、それに対する政治社会的な施策を比較検討する。

【到達目標】

学生は、韓国における政治社会の諸問題の存在とその対処方法などを見て、それらを自国の例と比較検討しながら教訓を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による授業が行われたあと、院生側が事前に用意してきた論点や疑問点が発表され、それらについて自由討議を行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	韓国政治の特徴	渦巻型構造論（中央集権、首都集中、科举制の影響）
第2回	大統領選挙の仕組み、歴史、投票分析	5年1期だけ制度の長短所 改憲の歴史、地域基盤の差異
第3回	国会議員選挙の仕組み、歴史、投票分析	国会の権限を含む
第4回	リベラル勢力1（政治勢力）	リベラル勢力の変遷を含む
第5回	リベラル勢力2（市民運動）	市民運動、学生運動
第6回	保守派の分析	自由党、共和党、民正党、ハンナラ党、自由韓国党
第7回	地域対立問題	慶尚道と全羅道の反目
第8回	兵役制度の仕組みと社会的影響	兵役の歴史を含む
第9回	教育制度の問題点	入試制度
第10回	不動産問題	価格高騰及び格差や少子化への影響
第11回	経済制度1（就職・雇用関係）	就職状況と賃金、正規職と非正規職
第12回	経済制度2（年金、弱者対策）	貧困対策、老人政策を含む
第13回	少子化問題	少子化の原因と対策
第14回	北朝鮮・南北統一に関する認識	世論調査をみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生は事前に指定テキストを2回以上熟読し、討論したいテーマと質問事項を1枚の紙にまとめ、授業開始の際に教員に伝達する必要がある。

【テキスト（教科書）】

開講の際に開示する

【参考書】

開講の際に開示する

【成績評価の方法と基準】

出席40%、討論参加度30%、レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

日本の防衛政策

南北朝鮮情勢

東アジアの軍事情勢

【Outline (in English)】

This course introduces the political and social issues of contemporary South Korea. It includes the issue of basic political structure, the analysis of presidential elections, the confrontation of liberals and conservatives, the social influence of compulsory military service, the perception of North Korea issues, etc.

The aim of this course is to help students understand the political and social issues in Korea, compare them with similar issues in Japan and get a good idea to cope with those issues.

POL600A42315

国際地域研究（朝鮮半島）（2）

崔 先鎬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域研究課目の一環として、北朝鮮における政治社会の諸問題について検討する。
朝鮮労働党・行政府・軍の三者関係と先軍政治、核やミサイル戦力の現状と配置状況、兵役制度の仕組みと社会的影響、食糧事情、エネルギー事情、ジャンマダン経済の状況、通常軍勢力の陳腐化、歴史認識などを取り上げ、その実態を分析するとともに、それに対する政治社会的な施策を比較検討する。

【到達目標】

北朝鮮の社会構造の基本とその問題点について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

事前に用意してきた論点や疑問点についての受講生の発表を中心に自由討議を行う。授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	権力機関の構成	国家保健省・人民武力省・人民保安省
第2回	朝鮮労働党、行政府、軍の3者関係	役割分担と相互関係
第3回	兵役制度の仕組みと社会的影響	10年説、13年説？ 女性の兵役は？
第4回	教育制度	学年制、カリキュラム、学費について
第5回	経済制度 1	就職・雇用・住宅・配給・老後政策
第6回	経済問題 1	食糧事情、 ジャンマダン経済の状況
第7回	経済問題 2	工業生産、エネルギー事情
第8回	改革開放の経済政策の試み	特区制度、農業制度、利益配分システム、私営企業
第9回	国連による経済制裁	経済制裁の内容と効果
第10回	核・ミサイル戦力の状況	戦力分析
第11回	通常戦力の状況	通常戦力の南北比較
第12回	韓国および南北統一に関する認識	権力を巡る人々の認識
第13回	米国、中国に対する政策	対ロシア政策
第14回	対日政策	対日政策および歴史問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は指定テキストを二回以上熟読し、討論したいテーマおよび内容、並びに質問事項について事前にレジュメにまとめること。授業開始の際に教員と参加者全員に配布すること。

【テキスト（教科書）】

開講の際に開示する（「参考書」を含めて以下を参照すること）
・中戸祐夫・森類臣 編『北朝鮮の対外政策：多角的な視座とその接近方法』京都、晃洋書房、2022年12月 (ISBN978-4771037069)
・根本敬、粕谷祐子編著『アジアの独裁と「建国の父」：英雄像の形成とゆらぎ』東京、彩流社、2024年2月、(ISBN978-4779129544)

・小此木政夫・文正仁 編『転換期の東アジアと北朝鮮問題』東京、慶應義塾大学出版会、2012年3月 (ISBN 978-4766419191)

【参考書】

・白楽晴 著・青柳純一 訳『朝鮮半島の平和と統一：分断体制の解体期にあたって』東京、岩波書店、2008年5月 (ISBN978-4000238519)
・小倉和夫・康仁徳 編『朝鮮半島地政学クライシス：形動を読み解く政治経済シナリオ』東京、日本経済新聞出版社、2017年6月 (ISBN978-4532134723)
・道下徳成『北朝鮮瀬戸際外交の歴史：1966-2012年』京都、ミネルヴァ書房、2013年6月 (ISBN978-4623065578)
・小此木政夫・儀崎敦仁 編『北朝鮮と人間の安全保障』東京、慶應義塾大学出版会、2009年3月 (ISBN978-4766416046)
・五味洋治『朝鮮戦争は、なぜ終わらないのか』大阪、創元社、2017年12月 (ISBN978-4422300573)
・福原裕二『北東アジアと朝鮮半島研究』東京、国際書院、2015年7月 (ISBN978-4877912703)
・李東俊『未完の平和：米中和解と朝鮮問題の変容：1969-1975年』東京、法政大学出版局、2010年12月 (ISBN978-4588377051)
・"The Two Koreas: A Contemporary History" Don Oberdorfer & Robert Carlin, Third Edition; Revised & Updated, Basic Books: A Member of the Perseus Books Group, New York (ISBN978-0465031238)

【成績評価の方法と基準】

出席35%・討論参加度35%・レジュメ30%

【学生の意見等からの気づき】

・日韓関係に連動する北東アジア情勢および日本の安全保障との関わり的重要性。

【担当教員の専門分野等】

・韓国と北朝鮮の情勢を巡る極東アジア政策と政治思想史
・日韓関係と北東アジア情勢

【Outline (in English)】

This course introduces the political and social issues of contemporary North Korea. It includes the issue of basic political structure, the analysis of communist party, government and military. Recent situation of North Korea's nuclear weapon capability, ballistic missiles and conventional weapons will be checked. It also will check current social and economic situation; food and energy situation, the social influence of compulsory military service, the perception of unification issues, etc.

The aim of this course is to help students understand the political and social issues in North Korea, compare them with similar issues in Japan and get a good idea to cope with those issues.

POL600A42318

国際地域研究（東南アジア）（1）

浅見 靖仁

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生が社会科学的地域研究を行うのに必要な理論や技法を習得することを目的とします。東南アジア諸国の政治経済状況を主な考察対象としますが、他の地域を研究する大学院生が履修しても、社会科学の議論の組み立て方や因果関係についての推論を行うための基本的なスキルを習得できる授業構成にします。

【到達目標】

受講生が東南アジア諸国、あるいはそれ以外の地域の政治経済状況について、反証可能な仮説を提示して、社会科学的分析できるようにすることを目標とします。この目標を達成するために、社会科学の思考方法と因果関係の推論に関する基本的な考え方を学んでもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

4月8日の最初の授業以外は、毎回事前に指定された文献（reading assignment）読んだ上で授業に出席してもらいます。その文献を読んだ上で考えてもらいたい質問を事前にいくつか提示します。授業ではそれらの質問に履修者に答えてもらい、それに対して教員がコメントや追加の質問をすることによって、文献に書かれていたことに対する理解を深めてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	因果関係の推論の重要性と社会科学のなりサーチクエストの作り方について解説。
第2回	東南アジアの政治的組織原理に関する仮説の検証(1)	東南アジアの政治的組織原理についての先行研究を題材にして、少ない事例に基づいて仮説を検証する方法について考察。
第3回	東南アジアの政治的組織原理に関する仮説の検証(2)	東南アジアの政治的組織原理についての対抗仮説を検討し、複数の仮説を比較検討する方法について考察。
第4回	先行研究との闘い方(1)	先行研究の探し方、読み方、分類方法、闘い方について考察。
第5回	先行研究との闘い方(2)	各受講生の研究テーマに関する具体的な先行研究を題材にして、先行研究の批判的検討の手法を学ぶ。研究テーマは東南アジア以外の地域を対象にしたものでもかまいません。
第6回	原因が複数ある場合の因果関係の推論(1)	原因が複数あることが想定される場合の因果関係の推論のしかたについての基本的な考え方の解説。
第7回	原因が複数ある場合の因果関係の推論(2)	東南アジアの事例を使って原因が複数ある場合の因果関係の推論を行った論文を読解。
第8回	因果関係の推論における偶発性の扱い(1)	因果関係の推論における偶発性の扱いについての基本的な考え方の解説。

第9回	因果関係の推論における偶発性の扱い(2)	各受講生の研究テーマについて偶発性をどう扱うかについての検討。
第10回	リサーチクエストの検討(1)	東南アジアについて書かれた論文を題材にして、リサーチクエストの設定の仕方について検討。
第11回	リサーチクエストの検討(2)	各受講生の研究テーマについて複数のリサーチクエストを作成。
第12回	因果関係のある相関関係と因果関係のない相関関係についての考察(1)	相関関係の背後に因果関係があるかどうかを判断するための基本的な考え方の解説。
第13回	因果関係のある相関関係と因果関係のない相関関係についての考察(2)	東南アジアについて書かれた論文を題材にして、相関関係の背後に因果関係があることの確認方法について検討。
第14回	授業のまとめ	1学期間の授業の総括を行うとともに、夏休み期間中に受講生が行う調査研究の計画について発表してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be asked to spend 4 hours to prepare materials for each class as well as review the materials discussed in previous classes.

【テキスト（教科書）】

A range of diverse materials will be provided by the instructor as reading assignment for each session.

【参考書】

佐藤俊樹『社会科学と因果分析：ウェーバーの方法論から知の現在へ』岩波書店、2019年／野村康『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会、2017年／片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門』有斐閣、2006年／末廣昭編『岩波講座東南アジア史第9巻 「開発」の時代と「模索」の時代』岩波書店、2002年／赤木攻・安井三吉編『講座東アジア近現代史第5巻 東アジア政治のダイナミズム』青木書店、2002年／古田元夫編『岩波講座世界歴史第26巻 経済成長と国際緊張：1950年代～70年代』岩波書店、1999年／古田元夫編『＜南＞から見た世界02 東南アジア・南アジア：地域自立の模索と葛藤』大月書店、1999年。

【成績評価の方法と基準】

Contribution to class discussion: 30 %, Presentations: 20%, Final exam: 50 %

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講生たちから寄せられた、東南アジアの政治や経済についての知識を得るだけでなく、社会科学的分析を行うための基礎的なスキルも身に付けたいという要望に応えるために、因果関係の推論に関する基本的な手法の習得にも重点を置いた授業構成にしました。

【学生が準備すべき機器他】

Reading assignmentはpdfファイルのかたちで提供するので、pdfファイルを閲覧したり、書き込みしたりするためのPCあるいはタブレットが必要です。

【その他の重要事項】

秋学期に開講する「国際地域研究（東南アジア）(2)」は履修せずに、春学期に開講する「国際地域研究（東南アジア）(1)」だけを履修することもできます。

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with basic skills and techniques to conduct their own research on political and economic changes in Southeast Asia, with special emphasis on the inference of causal relations. Basic skills and techniques taught in this course will be useful for those who study the other parts of the world as well.

POL600A42319

国際地域研究（東南アジア）（2）

浅見 靖仁

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生が社会科学的な地域研究を行うのに必要な理論やスキルを習得することを目的とします。第2次大戦後の東南アジア諸国の経済発展や政治変動を主な考察対象としますが、他の地域を研究する大学院生が履修しても、社会科学的な議論の組み立て方やデータを分析するための基本的なスキルを習得できる授業構成にします。

【到達目標】

受講生が東南アジア諸国、あるいはそれ以外の地域の経済発展や政治変動について、自分自身で分析する能力を獲得することを目標とします。そのために、経済発展や政治変動についての基本理論と経済的な統計データの分析方法を学んでもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は一般理論について学ぶ回と、それを使って東南アジア諸国の事例を受講生が分析する回を交互に行います。授業中には受講生に積極的に発言してもらいます。

一般理論について学ぶ回の授業では、事前に読んでくる文献を指示します。その文献を読んだ上で考えてもらいたい質問も事前にくつか提示します。授業ではそれらの質問に履修者に答えてもらい、それに対して教員がコメントや追加の質問をすることによって、文献に書かれていたことに対する理解を深めてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	地域研究にとっての方法論の重要性と社会科学の基本的な考え方について説明します。
第2回	東南アジア諸国の経済発展とその要因(1)	東南アジア諸国の経済発展の状況を概観するとともに、基本的な経済データの分析方法を学びます。
第3回	東南アジア諸国の経済発展とその要因(2)	経済に関するデータを受講生自身が分析した結果を受講生に発表してもらいます。
第4回	東南アジア諸国の貿易構造の変化(1)	東南アジア諸国の貿易構造の変化を概観するとともに、関税政策についての基本的な知識を身につけてもらいます。
第5回	東南アジア諸国の貿易構造の変化(2)	貿易に関するデータを受講生自身が分析した結果を受講生に発表してもらいます。
第6回	経済発展と政治変動に関する理論(1)	経済発展と政治変動との関係に関する理論についての理解を深めます。
第7回	経済発展と政治変動に関する理論(2)	経済発展と政治変動との関係に関する理論についての理解を深めます。
第8回	経済発展と政治変動に関する理論の応用	東南アジア諸国における経済発展と政治変動の関係について、受講生自身が行った分析について発表してもらいます。

第9回	サンプル・バイアスと対処法	サンプル・バイアスについての理解を深め、それへの対処法を学びます。
第10回	地域研究のリサーチデザイン(1)	リサーチデザインについての基本的な知識を身につけてもらいます。
第11回	地域研究のリサーチデザイン(3)	受講生が考えたりサーチのデザインについて発表してもらい、互いにその問題点を指摘し合ってもらいます。
第12回	先行文献の批判的読み方(1)	東南アジアの政治経済について書かれた先行研究を読み、それらの研究で用いられているリサーチデザインを批判的に検討することによって、リサーチデザインについての理解を深めます。
第13回	先行文献の批判的読み方(2)	東南アジアの政治経済について書かれた先行研究を読み、それらの研究で用いられているリサーチデザインを批判的に検討することによって、リサーチデザインについての理解を深めます。
第14回	授業のまとめ	1学期間の授業の総括を行うとともに、春休み期間中に受講生が行う調査研究の計画について発表してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be asked to spend 4 hours to prepare materials for each class as well as review the materials discussed in previous classes.

【テキスト（教科書）】

A range of diverse materials will be provided by the instructor as reading assignment for each session.

【参考書】

佐藤俊樹『社会科学と因果分析：ウェーバーの方法論から知の現在へ』岩波書店、2019年／野村康『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会、2017年／片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門』有斐閣、2006年／末廣昭編『岩波講座東南アジア史第9巻 「開発」の時代と「模索」の時代』岩波書店、2002年／赤木攻・安井三吉編『講座東アジア近現代史第5巻 東アジア政治のダイナミズム』青木書店、2002年／古田元夫編『岩波講座世界歴史第26巻 経済成長と国際緊張：1950年代～70年代』岩波書店、1999年／古田元夫編『＜南＞から見た世界02 東南アジア・南アジア：地域自立の模索と葛藤』大月書店、1999年。

【成績評価の方法と基準】

Contribution to class discussion: 30 %, Presentations: 20%, Final exam: 50 %

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講生たちから寄せられた、東南アジアの政治や経済についての知識を得るだけでなく、社会科学的な分析を行うための基礎的なスキルも身に付けたいという要望に応えるために、政治学や経済学、社会学などの基礎的な理論の紹介にも重点を置いた授業構成にしました。

【学生が準備すべき機器他】

経済統計の分析を行う回には、エクセルなどの表計算用ソフトがインストールされたPCが必要になります。

【その他の重要事項】

春学期に開講する「国際地域研究（東南アジア）(1)」は履修せずに、秋学期に開講する「国際地域研究（東南アジア）(2)」だけを履修することもできます。

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with basic knowledge and skills to conduct their own research on political and economic changes in Southeast Asia. Basic theories and statistical skills taught in this course will be useful for those who study the other parts of the world as well. Prior knowledge about statistics or Southeast Asia is not required.

POL600A42322

国際地域研究（ヨーロッパ）（1）**宮下 雄一郎**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：一次史料としての外交文書の分析と文献購読

授業の目的：本講義の目的は、ヨーロッパ国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。

【到達目標】

本授業の目標は、国際関係史に関する学術論文を執筆するに際し、一次史料を利用できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

原則、履修者による報告によって講義を実施する。

対面を軸としつつも、Zoomなどオンライン形式での授業を行う可能性もある。

なお、最終回の講義では、春学期に扱った史料に関する説明、そしてレポートなどに対する講評を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	受講者による史料読解・報告（1）	戦間期に関する外交①
第3回	受講者による史料読解・報告（2）	戦間期に関する外交②
第4回	受講者による史料読解・報告（3）	戦間期に関する外交③
第5回	受講者による史料読解・報告（4）	戦間期に関する外交④
第6回	受講者による史料読解・報告（5）	戦間期に関する外交⑤
第7回	受講者による史料読解・報告（6）	第二次世界大戦期の外交①
第8回	受講者による史料読解・報告（7）	第二次世界大戦期の外交②
第9回	受講者による史料読解・報告（8）	第二次世界大戦期の外交③
第10回	受講者による史料読解・報告（9）	第二次世界大戦期の外交④
第11回	受講者による史料読解・報告（10）	第二次世界大戦期の外交⑤
第12回	受講者による史料読解・報告（11）	第二次世界大戦期の外交⑥
第13回	受講者による史料読解・報告（12）	第二次世界大戦期の外交⑦
第14回	講義で扱った史料に関する説明／レポートに関する講評	国際関係史と史料分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各国の外交文書からの抜粋（Foreign Relations of the United States, 『日本外交文書』など）

【参考書】

瀬畑源『公文書をつかう—公文書管理制度と歴史研究』（青弓社、2011年）

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（70％）、議論への参加度（30％）

【学生の意見等からの気づき】

学術論文を執筆する際に、必要となる技法の習得に直結する講義の実施

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

履修するに際しては、国際関係史・国際政治史・外交史の基礎的な文献を読んでおくこと。

なお、報告に際し、利用する外交文書の言語は、日本語・英語のいずれかであることが望ましい。その他の言語の利用も可能だが、事前に相談すること。

購読する文献については、受講者の人数を踏まえながら、考えたい。

なお演習形式の授業の進行状況によっては、シラバスの内容を見直すこともあり得る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際関係史／戦争史

<研究テーマ>フランス外交史／ヨーロッパ統合論

<主要研究業績>『フランス再興と国際秩序の構想—第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016年）など

【Outline (in English)】

Outline: Analyzing diplomatic papers

Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods.

POL600A42323

国際地域研究（ヨーロッパ）（2）

宮下 雄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：一次史料としての外交文書の分析と文献購読
授業の目的：本講義の目的は、ヨーロッパ国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。国際地域研究（ヨーロッパ）（1）をすでに履修していることを前提とする。

【到達目標】

本授業の目標は、国際関係史に関する学術論文を執筆するに際し、必須となる一次史料の利用に習熟することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、履修者の報告に基づく演習形式で実施する。

対面での演習とする。なお、オンライン演習も実施する予定である。

最終回の演習で、秋学期に扱った史料の解説や履修者が執筆したレポートなどに関する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進行方法／報告者の順番決め
第2回	受講者による史料読解・報告（1）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想①
第3回	受講者による史料読解・報告（2）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想②
第4回	受講者による史料読解・報告（3）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想③
第5回	受講者による史料読解・報告（4）	冷戦期の外交①
第6回	受講者による史料読解・報告（5）	冷戦期の外交②
第7回	受講者による史料読解・報告（6）	冷戦期の外交③
第8回	受講者による史料読解・報告（7）	冷戦期の外交④
第9回	受講者による史料読解・報告（8）	冷戦期の外交⑤
第10回	受講者による史料読解・報告（9）	脱植民地化と外交①
第11回	受講者による史料読解・報告（10）	脱植民地化と外交②
第12回	受講者による史料読解・報告（11）	脱植民地化と外交③
第13回	受講者による史料読解・報告（12）	脱植民地化と外交④
第14回	史料に関する解説／レポートなどに関する講評	外交史研究の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各国の外交文書からの抜粋（Foreign Relations of the United States, 『日本外交文書』など）

【参考書】

モリス・ヴァイス（細谷雄一・宮下雄一郎監訳）『戦後国際関係史—二極化世界から混迷の時代へ』（慶應義塾大学出版会、2018年）

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（70％）、議論への参加度（30％）

【学生の意見等からの気づき】

秋学期に開催する授業ということもあり、修士論文の執筆を念頭に置いた演習を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

報告に際し、利用する外交文書の言語は、日本語・英語・フランス語のいずれかであることが望ましい。その他の言語の利用も可能だが、事前に相談すること。

購読する文献については、受講者の人数を踏まえながら、考えたい。

春学期と同じく、授業の進行状況によってはシラバスの内容の修正もあり得る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際関係史／戦争史

<研究テーマ>フランス外交史／ヨーロッパ統合論

<主要研究業績>『フランス再興と国際秩序の構想—第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016年）など

【Outline (in English)】

Outline: Analyzing diplomatic papers

Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods. It is required to take "International Area Studies (Europe) (1)" in the spring semester.

POL600A42400

グローバル政治経済特別セミナー

浅見 靖仁

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

タイのブラパー大学からゲスト講師を招いて8月9-12日に参加型ワークショップ形式の集中講義を行います。主にタイ政治を題材にしますが、タイ以外の東南アジアの国々の政治状況や日本との比較も行うことによって、民主主義と経済発展との関係などについての理解を深めてもらいます。

This four-day intensive course will be held in the "summer session" period, August 9-12, and taught by a guest lecturer, Associate Prof. Olarn Thinbangtio of Burapha University, Thailand. He is one of the most prominent scholar on Thai politics.

This course will focus on the political development of Thailand and its comparison with Japan.

【到達目標】

This course seeks:

- To broaden students' knowledge on political situations in Thailand and middle income countries in general
- To deepen students' understanding on how socioeconomic factors influence each country's political development.
- To equip students with theoretical frameworks to analyze political changes and compare the different types of political regimes.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

Class Schedule:

August 9 (Saturday)

10:40-12:20 Session 1, 13:10-14:50 Session 2

15:00-16:40 Session 3, 16:50-18:30 Session 4

August 10 (Sunday)

10:40-12:20 Session 5, 13:10-14:50 Session 6

15:00-16:40 Session 7

August 11 (Monday)

10:40-12:20 Session 8, 13:10-14:50 Session 9

15:00-16:40 Session 10, 16:50-18:30 Session 11

August 12 (Tuesday)

10:40-12:20 Session 12, 13:10-14:50 Session 13

15:00-16:40 Session 14

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Overview of the course
2	Historical Perspective	Historical background of Thai politics
3	Group Discussion	Comparison of the state-building in Thailand and Japan
4	Group Discussion	Group discussion and short presentation on nationalism and politics
5	Group Discussion	Group discussion and short presentation on the political role of the monarchy

6	Local Politics and National Politics	Lecture on the linkage and dislinkage between national and local politics in Thailand
7	Group Discussion	Group discussion and short presentation on the differences and similarities between local politics in Japan and Thailand
8	Gender and Politics	Lectures on gender and politics in Thailand and comparison with Japan
9	Generational Differences in Political Orientation	Lecture on the generational differences in voting behavior in Thailand
10	Group Discussion	Group discussion on the comparison of the young generation's political attitude in Thailand and Japan.
11	Presentations	Students will deliver a 10-minute presentation on a topic related to politics in Southeast Asia
12	Presentations	Students will deliver a 10-minute presentation on a topic related to politics in Southeast Asia
13	Presentations	Students will deliver a 10-minute presentation on a topic related to politics in Southeast Asia
14	Conclusion	Feedback to students' presentation and course wrap-up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend 56 hours outside of class for this course on average.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course. Relevant materials will be provided by the instructor.

【参考書】

References will be introduced by the instructors in class as needed.

【成績評価の方法と基準】

Class Participation: 30, Short Papers: 30%, Presentation: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students can bring in any digital tools that may help classroom discussions.

【その他の重要事項】

国際政治学科の2-4年生も実践講座科目として履修できます。タイ人ゲスト講師による講義はタイ語と英語で行われますが、担当教員（浅見）が日本語に通訳するので、英語力に不安がある人も履修できます。質疑応答はできるだけ英語で行ってもらいますが、どうしても英語でうまく質問できない場合は、担当教員がタイ語に訳して講師に伝えます。

講義の内容や日程が少し変更になる可能性もありますので、履修にあたっては以下のウェブサイトで最新の情報を確認してください。

<http://greenplum.noor.jp/asami/global2025/index.html>

【Outline (in English)】

This course combines the lectures on Thai politics and group discussion and students' presentation on the comparison of Thai and Japanese politics. Students are encouraged to express their own opinions and present their own analyses in class.

POL600A42403

総合講座・外交総合講座

本多 美樹

備考（履修条件等）：学部「外交総合講座」と合同
※学部卒で学部在籍時に履修済みの場合は履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートとの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本が多様なアクターと協働してどのように取り組んでいるのかについて理解を深めることにある。各回の授業には、政府や国際機関で活躍する実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業やNGOからの有識者に登壇していただき、質疑応答も活発に行うことによって、政府間関係からでは知りえない広義の「外交」への理解を深める。

【到達目標】

- ・国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に着ける。
- ・国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。
- ・日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

政府間関係だけではなく広義の「外交」への理解を促すため、ゲストスピーカーの講義の後には毎回、質疑応答の場を設ける。（*ゲストスピーカーの予定と調整を行うため、授業の順序とトピックは変更する可能性がある。）

毎回の授業後には講義への理解を確認するため、Hoppiiを通じて課題の提出を求める。課題に対するフィードバックは個々に行うとともに、必要に応じて次の授業の際にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
2	日本の対アジア太平洋政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
3	日本の対ヨーロッパ政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
4	日本の対アフリカ外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
5	平和維持活動から考える外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
6	移民と難民：国際社会と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
7	核と日本の外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
8	日本の経済外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
9	日本のメディアと外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
10	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
11	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
12	国際NGO/NPOと日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答

13	日本と国際人権	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
14	まとめ	これまでのゲストスピーカーの講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義に関連する資料を事前に読んでから授業に臨むこと。授業の予習復習には2時間程度時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特になし。関連資料は毎回事前に学習システムで配布する。

【参考書】

関連資料は随時授業時に知らせる。

【成績評価の方法と基準】

授業や質疑応答への活発な参加などの平常点（40%）と課題の提出状況と内容（60%）から総合的に判断する。なお、4回以上課題の提出を怠った学生には単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生は日々のニュースをフォローするなど、国際社会での出来事に関心を寄せること。関連するセミナーやシンポジウムへの参加が望ましい。これについても随時紹介する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な近著として、「経済制裁は平和のために有効か」石田淳ほか編著『国際平和論—脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）121-141頁；"Japan: COVID-19 and the Vulnerable," M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds.), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022) pp.136-156；『非伝統的安全保障』によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）；Miki Honda, “‘Smart Sanctions’ by the UN and financial sanctions,” Sachiko Yoshimura ed., United Nations Financial Sanctions(Routledge, 2021)pp. 18-33；「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）などがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the current status and challenges of diplomatic relations between Japan and its major counterparts in the international community, and to deepen understanding of how Japan works with diverse actors to tackle transnational/global issues that the international community faces, such as disarmament, migration, development, and environmental issues. Each class invites a guest speaker from Japanese ministries, international institutions, the media, think tanks, NGOs, and businesses. A Q&A session is held every after each lecture to have a better understanding of “diplomacy” in a broader sense than is possible from an intergovernmental perspective.

POL600A40500

国際政治学特殊演習

宮下 雄一郎

備考（履修条件等）：※2025年度以降入学生対象科目
（2024年度以前入学生の履修不可）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は国際政治学専攻1年次の学生が、最終学年での修士論文・リサーチペーパーの完成に向けて、アカデミック・マナーや学術論文作成の基礎能力を修得することを目的とする。具体的には、研究倫理や資料・文献の検索・収集方法、文献引用の仕方、学術論文の構成要件（リサーチ・クエスチョン、先行研究のレビュー、研究仮説・研究視角、参考文献リスト）を学ぶ。

【到達目標】

修士論文・リサーチペーパー作成に必要なアカデミック・マナーと学術的技法を修得し、学期末に実施する論文構想発表会において、自身の修士論文・リサーチペーパーの構想を適切に発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

アカデミック・マナーと学術論文執筆の基礎的素養を着実に修得できるよう、教員による講義と受講生の実践を交差させながら授業を実施していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この科目の概要や授業スケジュールを説明する
第2回	研究倫理①	研究倫理についての研修プログラムを受講する
第3回	研究倫理②	研究倫理について教員から指導を受け、疑問点を解消する
第4回	学術論文とは何か①	学術論文の基本（リサーチ・クエスチョン、先行研究の批判的レビュー、研究視角等）を学習する
第5回	学術論文とは何か②	現時点での論文構想を報告し、学術論文としての課題を確認する
第6回	資料・文献の検索・収集方法	図書館とオンラインデータベースの使い方を修得する
第7回	アカデミック・マナー①	文献の引用方法を学ぶ
第8回	アカデミック・マナー②	文献の引用方法を実践、修得する
第9回	アカデミック・マナー③	参考文献リストの作成方法を学ぶ
第10回	アカデミック・マナー④	参考文献リストの作成方法を実践、修得する
第11回	論文構想の準備	論文の構想をまとめ、報告資料を作成する
第12回	論文構想発表会	論文構想発表会において自身の修士論文・リサーチペーパーの構想を報告し、教員からの指導を受ける
第13回	論文構想発表会	他の院生による報告を聞き、その内容を自身の論文構想にフィードバックする

第14回 論文構想発表会の振り返り 論文構想発表会での指摘事項を振り返り、具体的な修正点を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究の収集・精読や論文構想の作成には多くの時間を要する。論文構想発表会に向けて計画的に準備を進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（20％）
・論文構想発表会の提出資料及びプレゼンテーション（80％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度初めて開講される授業につき、フィードバックできません。

【その他の重要事項】

シラバスの内容に変更が生じる場合もあることに留意していただきたい。

秋学期開催の講義であるものの、春学期に何コマか前倒しで行う可能性がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際関係論・国際関係史・戦争史・欧州統合論・フランス外交史

<研究テーマ>フランスと国際秩序・日仏関係史

<主要研究業績>『フランス再興と国際秩序の構想—第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016年）

【Outline (in English)】

This course aims to help students majoring in Global Politics acquire basic academic skills and academic writing in preparation for completing their master's thesis or research paper in their final year. Specifically, students will learn research ethics, how to search and collect materials and literature, how to cite literature, and the requirements for constructing an academic paper (research question, review of previous research, research hypothesis and perspective, and reference list).

